

比 爪 館

—第 33 次・第 34 次発掘調査報告書—

令和 4 年 3 月

紫波町教育委員会

比 爪 館

—第 33 次・第 34 次発掘調査報告書—

令和 4 年 3 月

紫波町教育委員会

例 言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内に所在する比爪館遺跡で実施した第33次・34次発掘調査緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査概要

・比爪館遺跡第33次発掘調査

調査事由 放課後児童クラブ整備工事に伴う緊急発掘調査

調査期間 令和元年6月10日～令和元年7月31日 調査面積 210.4㎡

・比爪館跡第34次発掘調査

調査事由 倉庫建て替え工事に伴う緊急発掘調査

調査期間 令和3年4月1日～令和3年4月28日 調査面積 95.8㎡

(令和元年度)

(令和3年度)

3 調査主体	紫波町教育委員会	教育長	侘美 淳	教育長	侘美 淳
調査組織	紫波町教育委員会事務局	教育部長	八重嶋 靖	教育部長	八重嶋 靖
		生涯学習課長	教育部長事務取扱	生涯学習課長	須川 範一
		学習推進室長	沼田 信一	生涯学習係長	藤原 慎也
		主任	岩館 岳	主任	岩館 岳
		主事	上方 雄理	主任	上方 雄理
		主事	八角 昂佑	主任文化財専門員	鈴木 賢治
		主任文化財専門員	鈴木 賢治		

※調査担当・本書の執筆及び編集は、鈴木 賢治が行った。

4 本報告書の作成にあたっては、下記の方々に御指導・御協力いただいた。(五十音順・敬称略)

岩手県教育委員会生涯学習文化財課、羽柴直人〔(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〕、室野秀文(盛岡市遺跡の学び館)

5 遺構の平面実測図および、座標測量は(株) グランプラスに委託した。

6 調査区全景(ドローンによる空撮)は、(株) タックエンジニアリングに委託した。

7 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。土層層相の色相観察は、小山 竹原著「新版標準土色帖」日本色研事業(株)を使用した。

8 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日詰を使用した。

9 各遺構名と遺構記号は次の通り。竪穴建物跡-SI、掘立柱建物跡-SB、土坑跡-SK、溝跡-SD、柱穴-P

10 座標数値

比爪館遺跡第33次発掘調 基-1 X=-51560.098 Y=28449.996

基-2 X=-51540.864 Y=28446.921

比爪館遺跡第34次発掘調 基-1 X=-51503.154 Y=28497.562

基-2 X=51497.522 Y=28290.316

11 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。

12 現場作業及び室内整理事業は、次の方々に参加・協力して頂いた。(五十音順 敬称略)

一戸 幹夫、伊藤 敬子、稲垣 淳子、小澤 功子、小川 和晃、川又 達夫、小松 愛子、高橋 洸介、松岡 好一、吉田 千鶴子、吉田 良二

目 次

例 言
目 次
本 目 次
挿図目次

表 目 次
写真図版
報告書抄録

本 目 次

1	遺跡の環境	1
	(1) 位置	1
	(2) 地形と地質	1
	(3) 周辺の遺跡	2
2	調査の概要	4
	(1) 過去の調査	4
	(2) 調査に至る経過	7
3	第33次調査の概要	8
	(1) 検出遺構	9
	(2) 出土遺物	31
4	まとめ	44
5	第34次調査の概要	47
	(1) 検出遺構	47
	(2) 出土遺物	50
6	まとめ	61

挿 図 目 次

第1図	比爪館遺跡 位置図 (1:50,000)	1
第2図	周辺の主な遺跡 位置図	3
第3図	比爪館遺跡遺構配置図	5～6
第4図	比爪館遺跡 第33次・第34次発掘調査 位置図 (1:800)	7
第33次調査		
第5図	第33次調査区 全体図 (1:120)	8
第6図	SI-073 竪穴建物跡 平面図・断面図 (1:50)	14
第7図	SB-024・SB-025 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:60 1:50)	15

第 8 図	SB-026・SB-027 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:50・1:60)	16
第 9 図	SK-194～SK-199 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)	17
第 10 図	SK-200～SK-204 土坑跡 No.29 陥し穴状遺構 平面図・断面図 (1:50)	18
第 11 図	SA-02 堀跡 SD-067～SD-70 溝跡 平面図・断面図 (1:60)	22
第 12 図	門柱 1・門柱 2 SA-03 柵列跡 平面図・断面図 (1:50)	23
第 13 図	SD-065・SD-066 堀跡 平面図・断面図 (1:100・1:50)	23
第 14 図	P1～P107 柱穴 断面図 (1:100)	30
第 15 図	出土遺物① (1:3)	36
第 16 図	出土遺物② (1:3)	37
第 17 図	出土遺物③ (1:3)	38
第 18 図	出土遺物④ (1:3)	39
第 19 図	出土遺物⑤ (1:3)	40
第 20 図	出土遺物⑥ (1:3)	41
第 21 図	出土遺物⑦ (1:3)	42
第 22 図	出土遺物⑧ (1:3)	43

第 34 次調査

第 1 図	第 34 次調査区 全体図 (1:400)	47
第 2 図	大溝跡 (堀跡) 平面図・断面図 (1:80)	48
第 3 図	出土遺物① (1:3)	53
第 4 図	出土遺物② (1:3)	54
第 5 図	出土遺物③ (1:3)	55
第 6 図	出土遺物④ (1:3)	56
第 7 図	出土遺物⑤ (1:3)	57
第 8 図	出土遺物⑥ (1:3)	58
第 9 図	出土遺物⑦ (1:3)	59
第 10 図	出土遺物⑧ (1:3)	60

表 目 次

表 1	周辺の遺跡一覧表	2
表 2	比爪館遺跡調査回数一覧表	4

第 33 次調査

表 3	注記一覧表①	24
表 4	注記一覧表②	25
表 5	注記一覧表③	26
表 6	注記一覧表④	27
表 7	注記一覧表⑤	28

表 8	P1 ~ P107 柱穴 規模一覽表	29
表 9	出土遺物一覽表①	32
表 10	出土遺物一覽表②	33
表 11	出土遺物一覽表③	34
表 12	出土遺物一覽表④	35

第 34 次調査

表 1	大溝跡 埋土注記一覽表	49
表 2	出土遺物一覽表①	51
表 3	出土遺物一覽表②	52

写真図版

第 1 図版	比爪館遺跡第 33 次調査区 全景（空撮）
第 2 図版	SI-073 竪穴建物跡 SK-196・SK-197 土坑跡 N0.29 陥し穴状土坑跡 SA-02 柵列跡
第 3 図版	SD-067 ~ SD-70 溝跡 門柱 1・門柱 2 SA-03 柵列跡
第 4 図版	SD-065・SD-066 堀跡 出土遺物状況
第 5 図版	出土遺物①
第 6 図版	出土遺物②
第 7 図版	出土遺物③
第 8 図版	出土遺物④
第 9 図版	出土遺物⑤
第 10 図版	出土遺物⑥
第 11 図版	出土遺物⑦
第 12 図版	比爪館遺跡第 34 次調査区全景（空撮）
第 13 図版	大溝跡 出土遺物状況 検出面 作業風景
第 14 図版	出土遺物①
第 15 図版	出土遺物②
第 16 図版	出土遺物③
第 17 図版	出土遺物④

1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR 東北線日詰駅の南東約 500m、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内の中位花巻段丘相当面上に位置する。遺跡範囲は南北約 340m、東西約 320m と推定される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約 900m には、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。町内における平地は、西側一帯は奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川郡によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されており、そこに顕著に段丘面が形成されている。また、北上川の東部においては、北上山地の丘陵郡との間に狭隘な段丘が形成されるのみである。これら北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内では相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘（花巻段丘相当）・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



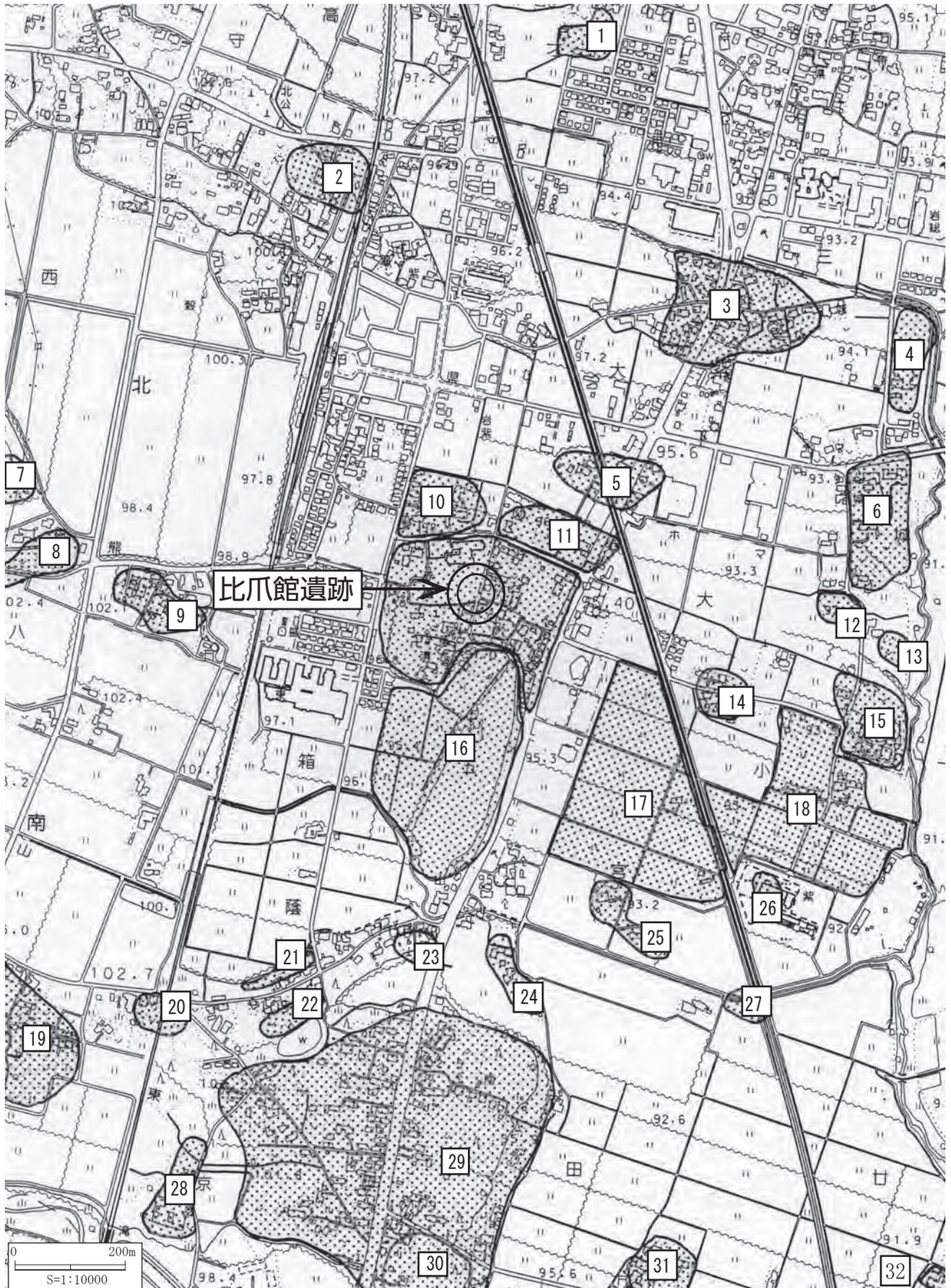
第 1 図 比爪館遺跡 位置図 (1:50,000)

(3) 周辺の遺跡

当遺跡の北側に北日詰東ノ坊Ⅰ・Ⅱ遺跡、東側に南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡、南側に南日詰遺跡、西側に北日詰八卦遺跡などが所在する。また、紫波町には県指定史跡である川原毛瓦窯跡・舟久保洞窟、町指定史跡である高水寺城跡、陣ヶ岡陣営跡など貴重な遺跡が多く存在する。

次数	遺構名	住所地	種別	遺構・遺物
1	才土地	桜町字才土地	集落跡	竪穴住居跡、掘立柱建物跡 土師器、須恵器
2	北日詰下藪	北日詰字下藪	散布地	土師器
3	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	かわらけ
4	北日詰字城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器
5	北日詰字東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、字下東ノ坊	散布地	土師器、かわらけ
6	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
7	北日詰字外谷地Ⅳ	北日詰字外谷地	散布地	石器
8	北日詰字外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
9	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
10	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
11	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
12	北日詰東ノ坊	北日詰字東ノ坊、字城内	散布地	土師器、白磁
13	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器
14	南日詰大銀Ⅰ	南日詰字大銀、字小路口	散布地	土師器、かわらけ
15	南日詰大銀Ⅱ	北日詰字城内、南日詰字大銀	散布地	土師器、須恵器
16	五郎沼（比爪館）	南日詰字箱清水	散布地	縄文土器、かわらけ
17	南日詰小路口Ⅰ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
18	南日詰小路口Ⅱ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
19	南日詰京田Ⅰ	南日詰字京田	散布地	縄文土器、土師器
20	南日詰京田Ⅱ	南日詰字京田	散布地	土師器、須恵器
21	南日詰蔭沼Ⅰ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
22	南日詰蔭沼Ⅱ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
23	伝蛇塚	南日詰字箱清水	経塚	珠州系壺
24	南日詰田中Ⅰ	南日詰字田中	散布地	須恵器
25	南日詰宮崎	南日詰字宮崎	散布地	土師器
26	南日詰小路口Ⅲ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
27	南日詰田中Ⅱ	南日詰字田中	散布地	土師器
28	南日詰京田Ⅲ	南日詰字京田	散布地	土師器
29	南日詰	南日詰字蔭沼、字京田、字滝名川、字田中	散布地	縄文土器、土師器、かわらけ
30	伝善知鳥館	南日詰字滝名川	城館跡	空堀、土塁、柵列、縄文土器
31	南日詰滝名川Ⅴ	南日詰字滝名川	散布地	縄文土器
32	南日詰八坂	南日詰字八坂	散布地	須恵器

表1 周辺の遺跡一覧表



第2図 周辺の主な遺跡 遺跡位置図

2 調査の概要

(1) 過去の調査

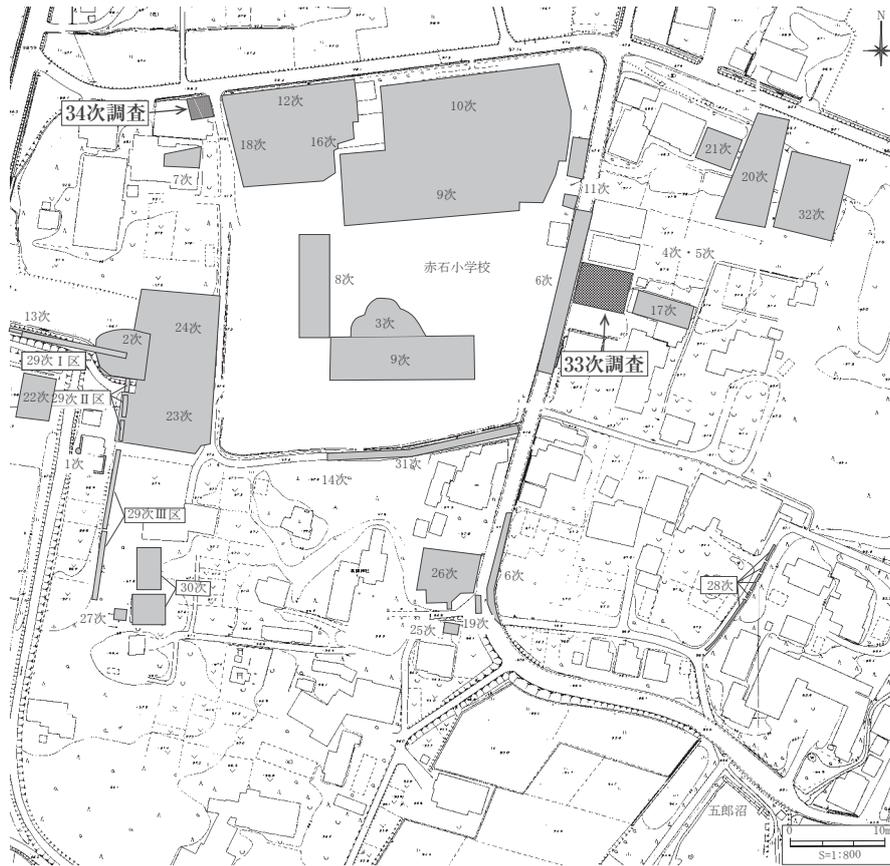
当遺跡は、奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡として周知の所である。考古学的な調査は1965年の板橋源氏(岩手大学)の発掘調査を始まりとし、第1次調査から第5次調査まで実施している。その後、紫波町教育委員会が主体となり、遺跡の範囲確認調査や開発行為に伴う緊急発掘調査を、第32次調査まで継続して調査を実施している。これまでに検出された遺構は、掘立柱建物跡23棟、竪穴建物跡72棟、土坑跡193基、溝跡64条、井戸跡41基、陥し穴状遺構28基、焼土遺構12基、柱穴多数、その他などである。

次数	住 所 地	調査原因	面積	期 間	検 出 遺 構
第1	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	学術調査	230㎡	S40,11,18～11,21	掘立柱建物跡2、竪穴建物跡2、土坑2
第2	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校庭整備	500㎡	S47,7,20～7,29	掘立柱建物跡1、竪穴建物跡2、溝跡4
第3		学術調査			
第4	紫波町南日詰字箱清水163地内	学術調査	55㎡	S49,11,6～11,20	竪穴建物跡2、土坑1
第5	紫波町南日詰字箱清水160-2地内		63㎡	S50,11,10～11,18	
第6	紫波町南日詰字箱清水169-6地内	町道改良	370㎡	S57,7,12～9,7	竪穴建物跡3、土坑9、溝跡6、井戸跡1
第7	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	356㎡	S60	掘立柱建物跡3、竪穴建物跡3、土坑6、溝跡7、井戸跡2
第8	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	355㎡	S62	掘立柱建物跡2、竪穴建物跡1、土坑3、溝跡2、井戸跡2、隠し穴5
第9	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	2,060㎡	S63,5,16～12,10	掘立柱建物跡9、竪穴建物跡38、土坑60、溝跡6(大溝1)、井戸跡2、隠し穴5、焼土遺構10基
第10			2,100㎡	H1,3,29～12,12	
第11	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	76㎡	H2,5,27～6,30	竪穴建物跡2、土坑5、溝跡3、隠し穴1
第12	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	465㎡	H2,5,27～6,30	竪穴建物跡2、隠し穴2、(*大溝1)
第13	紫波町南日詰字箱清水540-4地内	範囲確認	36㎡	H3,9,24～9,30	(*29次調査と重複)
第14	紫波町南日詰字箱清水540-1地内	下水道関連	350㎡	H3	なし。(試掘調査)
第15	紫波町南日詰字箱清水地内	下水道関連	350㎡	H4	なし。(試掘調査)
第16	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	415㎡	H4,6,4～7,28	竪穴建物跡3、土坑15、井戸跡2、隠し穴1
第17	紫波町南日詰字箱清水164-2番地内	倉庫建設	167㎡	H5	溝跡2
第18	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	255㎡	H6,9,15～10,22	土坑9、溝跡2、井戸跡1
第19	紫波町南日詰字箱清水164-4番地内	下水道関連	15㎡	H6	溝跡1
第20	紫波町南日詰字箱清水160-1番地内	宅地造成	525㎡	H8	土坑13 (*大溝1)
第21	紫波町南日詰字箱清水161-2地内	個人住宅	123㎡	H9	柱穴(近世)
第22	紫波町南日詰字箱清水12-3地内	個人住宅	94㎡	H9	井戸跡1 (*大溝1)
第23	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	町道改良	807㎡	H11	掘立柱建物跡6、竪穴建物跡4、土坑45、
第24	紫波町南日詰字箱清水地内(小学校内)	校舎建設	702㎡	H12	溝跡9、井戸跡7、隠し穴6
第25	紫波町南日詰字箱清水190-2番地内	倉庫建設	20㎡	H15,5,9～5,14	竪穴建物跡2、土坑1
第26	紫波町南日詰字箱清水169-4地内	集会所建設	216㎡	H16,9,13～11,12	竪穴建物跡4、土坑6、溝跡3、焼土遺構1基
第27	紫波町南日詰字箱清水187-1地内	倉庫建設	28㎡	H21.4.27～5.19	竪穴建物跡1、土坑1、井戸跡1
第28	紫波町南日詰字箱清水地内	下水道関連	30.4㎡	H21.6.20～8.30	溝跡3条、土坑跡1基、柱穴
第29	紫波町南日詰字箱清水540-4地内	下水道関連	72㎡	H23.10.3～10.19	土坑2基、井戸跡1基、焼土遺構1基、柱穴
			74㎡	H24..5.7～5.23	溝跡4条、井戸跡1基、柱穴
第30	紫波町南日詰字箱清水187-1地内	個人住宅	275㎡	H24.7.2～7.31	竪穴建物跡1棟、溝跡1条、土坑跡2基、土壘状遺構、池跡1ヵ所、柱穴
第31	紫波町南日詰字箱清水172-1地内	下水道関連	166㎡	H25.8.26～9.13	竪穴建物跡1棟、溝跡6条、土坑跡2基、柱穴
第32	紫波町南日詰字箱清水160-1地内	保育所施設	660㎡	H25.9.24～12.2	竪穴建物跡1棟、井戸跡4基、溝跡7条、土坑跡10基、陥し穴状遺構1基、柱穴

表2 比爪館跡調査次数一覧表



第3図 比爪館跡 遺構配置図



第4図 比爪館跡 第33次・第34次発掘調査位置図 (1:800)

(2) 調査に至る経過

・比爪館第33次調査

【調査に至る経緯】

学校法人紫波学園による赤石第一・第二・第三放課後児童クラブ整備事業に伴い、その事業区域が比爪館遺跡に該当することから記録保存調査を実施したものである。

学校法人紫波学園から令和元年6月6日付で文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘届出の提出があり、同年6月7日付で岩手県教育委員会から工事着手前の発掘調査実施するよう事業者へ通知があった。

上記に伴い、事業者と調整の上、同年6月10日から記録保存調査に着手し、7月31日に現地調査を完了した。

・比爪館第34次調査

【調査に至る経緯】

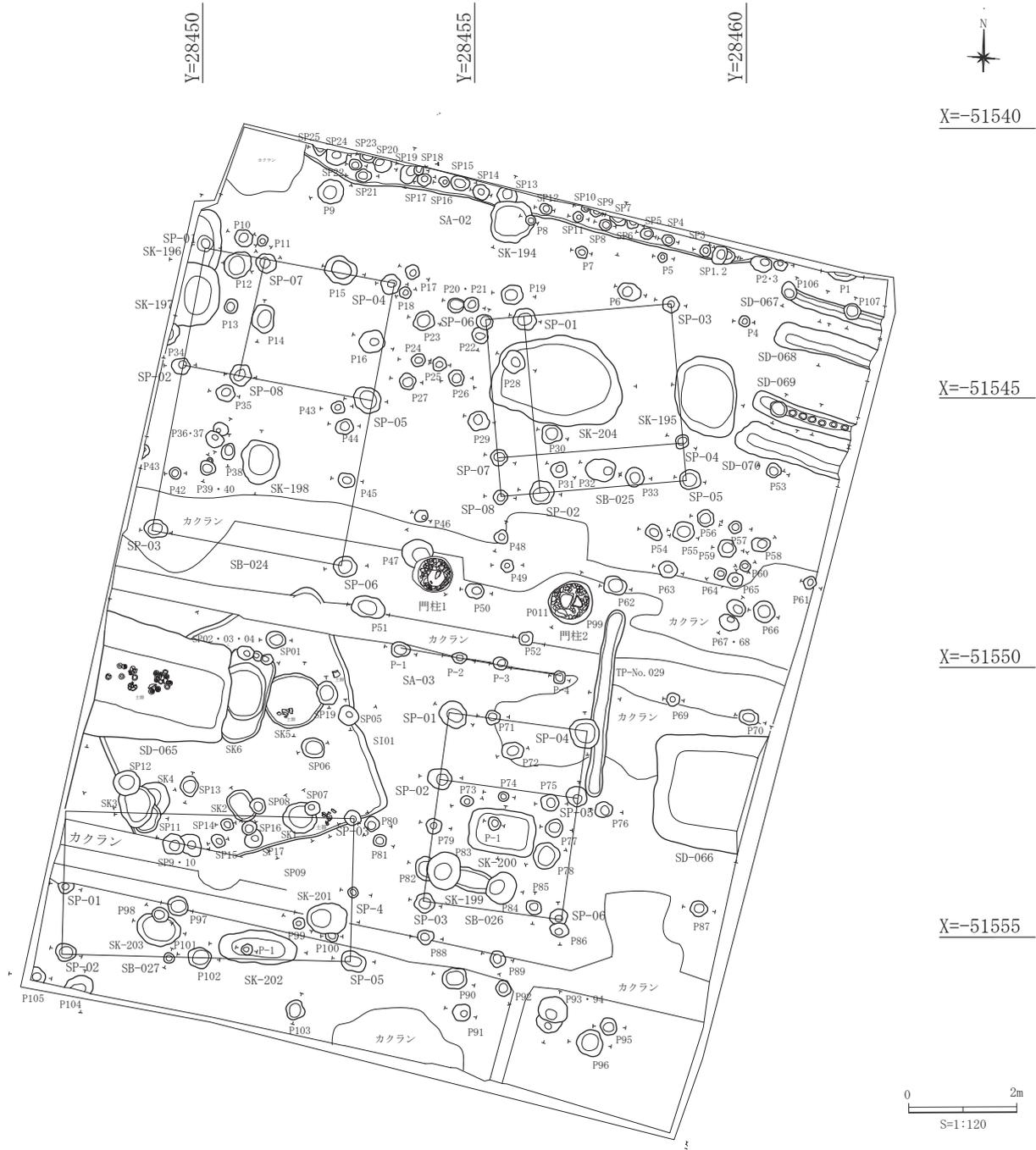
調査地における個人住宅倉庫建設事業に係る協議があり、比爪館遺跡に該当することから事業予定地には埋蔵文化財が包含されることが予測される旨回答した。

その後、事業者から令和3年3月30日付で文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出の提出があり、同年3月31日付で岩手県教育委員会から工事着手前の発掘調査実施するよう事業者へ通知があった。

上記に伴い、事業者と調整の上、同年4月1日から記録保存調査に着手し、4月28日に現地調査を完了した。

3 第33次調査の概要

- 位置** 国道4号から西に約160m、町立赤石小学校正門から南東に約40mの地点で、範囲は南北16.9m、東西13.2mを調査した。
- 検出遺物** 竪穴建物跡、掘立柱建物跡、堀跡、門跡、土坑跡、溝跡、塀跡、陥し穴状遺構、柱穴
- 出土遺物** 土師器、須恵器、かわらけ、土師質土器、国産陶器、鉄製品、その他



第5図 第33次調査区全体図 (1:120)

(1) 検出遺構

SI-073 竪穴建物跡 (第6図)

位置 調査区南西 **平面形** 不整隅丸方形 **重複関係** SB-027・SD-065 に切られる
主軸方向 N18° W **掘込面** 削平 **壁の状況** 外傾して立ち上がる
検出面 黄褐色土シルト層 **規模** 南東-北西上端 4.28m・下端 4.18m、南東-北西上端 4.68m・下端 4.49m、深さ 0.05m～0.14m をはかる。
埋土 自然堆積。A層・B層に大別される。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土を主体とする。A層・B層はカーボン及び土器片を含む。
床の状況 ほぼ平坦 **カマド** 確認できなかった
土坑跡 各土坑跡の長軸・短軸・深さは次の通りである。
SK01-0.63m・0.58m・0.25m、SK02-0.62m・0.45m・0.24m、SK03-0.64m 以上・0.68m・0.38m、SK04-0.29m・1.03m・0.11m、SK05-0.177m・0.72m 以上・0.48m、SK06-1.78m・0.71m 以上・0.13m をはかる。
ピット 各柱穴の深さは次の通りである。
SP01-0.12m、SP02-0.28m、SP03-0.13m、SP04-0.21、SP05-0.23m、SP06-0.39m、SP07-0.45m、SP08-0.33m、SP09-0.23m、SP10[^]0.22m、SP11-0.22m、SP12-0.12m、SP13-0.19m、SP14-0.15m、SP15-0.11m、SP16-0.29m、SP17-0.12m、SP18-0.31m をはかる。
出土遺物 土師器 坏・甕、あかやき土器坏・甕、須恵器 甕

SB-024 掘立柱建物跡 (第7図)

位置 調査区北西側
平面形 桁行2間、梁間2間 (長方形)
重複関係 SK-196 を切る
規模 南北2間 5.13m (17尺7寸)、東西2間 2.50m (8尺3寸)
棟方向 N11° E
埋土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。
柱間寸法 桁行 SP01・SP02-2.26m、SP02・SP03-3.05m、SP04・SP05-2.25m、SP05・SP06-3.12m、SP07・SP08-2.19m、梁間 SP01・SP07-1.12m、SP07・SP04-1.38m、SP02・SP09-1.19m、SP08・SP05-2.52 m、SP03・SP06-3.53m をはかる。
柱穴 各柱穴の深さは次の通りである。
SP01-0.18m、SP02-0.43m、SP03-0.39m、SP04-0.38m、SP05-0.47m、SP06-0.24m、SP07-0.22m、SP08-0.45m をはかる。
出土遺物 かわらけ

SB-025 掘立柱建物跡 (第7図)

位置 調査区南東
平面形 二面庇建物。母屋桁行1間・梁間1間、庇桁行2間・梁間2間 (正方形)
重複関係 P22 を切る

規 模 母屋南西 3.49m (11 尺 6 寸)、東西 2 間 3.45m (11 尺 5 寸)
棟 方 向 N4° E
埋 土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。
柱間寸法 母屋 SP02・SP03-2.57m、母屋梁間 SP01・SP02-2.69m、庇桁行 SP04・SP05-1.52m、
SP05・SP06-0.78m、SP03・SP08-0.71m、庇梁間 SP06・SP-07-0.71m、SP07・SP08-
2.78m をはかる。
柱 穴 各柱穴の深さは次の通りである。
SP01-0.14m、SP02-0.49m、SP03-0.37m、SP04-0.33m、SP05-0.48m、SP06-0.34m、
SP07-0.28m、SP08-0.13m をはかる。
出土遺物 なし

SB-026 掘立柱建物跡 (第 8 図)

位 置 調査区中央
平 面 形 桁行 2 間、梁間 1 間 (長方形)
重複関係 P86 に切られる
規 模 南北 2 間 3.58m(11 尺 9 寸)、東西 2 間 2.49m (8 尺 3 寸)
棟 方 向 N10° E
埋 土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。
柱間寸法 桁行 SP01・SP02-1.26m、SP02・SP03-2.33m、SP04・SP05-1.26m、SP05・SP06-3.51m、
梁間 SP01・SP04-2.49m、SP02・SP05-2.52m、SP03・SP06-2.53m をはかる。
柱 穴 各柱穴の深さは次の通りである。
SP01-0.46m、SP02-0.44m、SP03-0.37m、SP04-0.28m、SP05-0.49m、SP06-0.23m をはかる。
出土遺物 かわらけ

SB-027 掘立柱建物跡 (第 8 図)

位 置 調査区南西
平 面 形 桁行 2 間、梁間 1 間 (長方形)
重複関係 SI-072 を切る
規 模 南西 5.28m (17 尺 6 寸)、東西 2 間 2.66m (8 尺 8 寸)
棟 方 向 N3° E
埋 土 自然堆積。黒褐色土～明黄褐色土を主体とする。
柱間寸法 桁行 SP02・SP05-5.28m、SP01・SP04-5.32m、梁間 SP01・SP02-1.12m、SP03・SP04-
1.40m、SP04・SP05-1.26m をはかる。
柱 穴 各柱穴の深さは次の通りである。
SP01-0.45m、SP02-0.34m、SP03-0.27m、SP04-0.28m、SP05-0.33m をはかる。
出土遺物 かわらけ

SK-194 土坑跡 (第9図)

位置 調査区北側 平面形 不整円形 重複関係 SA-02 を切る
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規模 上端 0.78m ~ 0.84m、下端 0.52m ~ 0.72m、深さは検出面から 0.22m をはかる。
埋土 自然堆積。A層 ~ B層に大別する。A層は黒褐色土、B層は黄褐色土を主体とする。
壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。
出土遺物 なし

SK-195 土坑跡 (第9図)

位置 調査区北東側 平面形 不整楕円形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規模 上端 1.14m ~ 1.54m、下端 0.96m ~ 1.16m、深さは検出面から 0.13m をはかる。
埋土 自然堆積。A層 ~ B層に大別する。A層は暗褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。
出土遺物 かわらけ

SK-196 土坑跡 (第9図)

位置 調査区北西側 平面形 不整楕円形 重複関係 SK-197 に切られる
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規模 上端 0.73m 以上 ~ 2.19m、下端 0.42m 以上 ~ 1.97m、深さは検出面から 0.32m をはかる。
埋土 自然堆積。A層 ~ K層に大別し、B層・C層・D層は2層に細分する。A層・D層・H層は黒褐色土、B層は黒色土、C層・E層・I層は暗褐色土、F層・K層は明黄褐色土、G層は灰黄褐色土、J層はにぶい黄褐色土を主体とする。
壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。
出土遺物 土師器 坏・甕、あかやき土器・甕

SK-197 土坑跡 (第9図)

位置 調査区北西側 平面形 不整円形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規模 上端 0.81m ~ 0.84m、下端 0.42m ~ 0.65m、深さは検出面から 0.19m をはかる。
埋土 自然堆積。A層 ~ F層に大別しする。A層は黒色土、B層は暗褐色土、C層は褐色土、D層は黒褐色土、E層は黄褐色土、F層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。
出土遺物 土師器 坏、あかやき土器 坏・甕、須恵器 甕

SK-198 土坑跡 (第 9 図)

位 置 調査区南西側 平面形 不整円形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.82m ~ 0.88m 以上、下端 0.42m ~ 0.55m 以上、深さは検出面から 0.15m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ C 層に大別しする。A 層は黒色土、B 層は暗褐色土、C 層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 外傾して立ち上がる。
出土遺物 なし

SK-199 土坑跡 (第 9 図)

位 置 調査区南側 平面形 不整長方形 重複関係 P83・P84 に切られる
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.43m ~ 0.52m 以上、下端 0.28m ~ 0.52m 以上、深さは検出面から 0.19m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ C 層に大別し、A 層は 2 層に細分する。A 層はにぶい黄褐色土、B 層は褐色土、C 層は黒褐色土を主体とする。
壁の状況 ほぼ垂直に立ち上がる。
出土遺物 なし

SK-200 土坑跡 (第 10 図)

位 置 調査区南側 平面形 不整長方形 重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.82m ~ 1.25m、下端 0.61m ~ 0.85m、深さは検出面から 0.31m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ F 層に大別し、A 層・D 層は 2 層に細分する。A 層は褐色土、B 層は暗褐色土、C 層はにぶい黄褐色土、D 層は黒褐色土、E 層は黄褐色土、F 層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 緩やかに外傾して立ち上がる。
出土遺物 なし

SK-201 土坑跡 (第 10 図)

位 置 調査区南側 平面形 不整楕円形 重複関係 P100 を切る
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.57m ~ 0.76m、下端 0.34m ~ 0.36m、深さは検出面から 0.49m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ I 層に大別し、B 層・D 層・D 層・F 層は 2 層に細分する。A 層は黒褐色土、B 層・E 層はにぶい黄褐色土、C 層・F 層は暗褐色土、D 層は褐色土、G 層は黒色土、H 層は黄褐色土、I 層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 ほぼ垂直に立ち上がる。
出土遺物 なし

SK-202 土坑跡 (第 10 図)

位置	調査区南西側	平面形	不整長楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層		
規模	上端 0.55m ~ 1.49m、下端 0.32m ~ 0.98m、深さは検出面から 0.4m をはかる。				
埋土	自然堆積。A 層 ~ I 層に大別し、A 層・F 層・G 層・H 層は 2 層に細分する。A 層・F 層は黒褐色土、B 層・H 層は褐色土、C 層はにぶい黄褐色土、D 層は暗褐色土、E 層は黒色土、G 層は黄褐色土、I 層は明黄褐色土を主体とする。				
壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる。				
出土遺物	なし				

SK-203 土坑跡 (第 10 図)

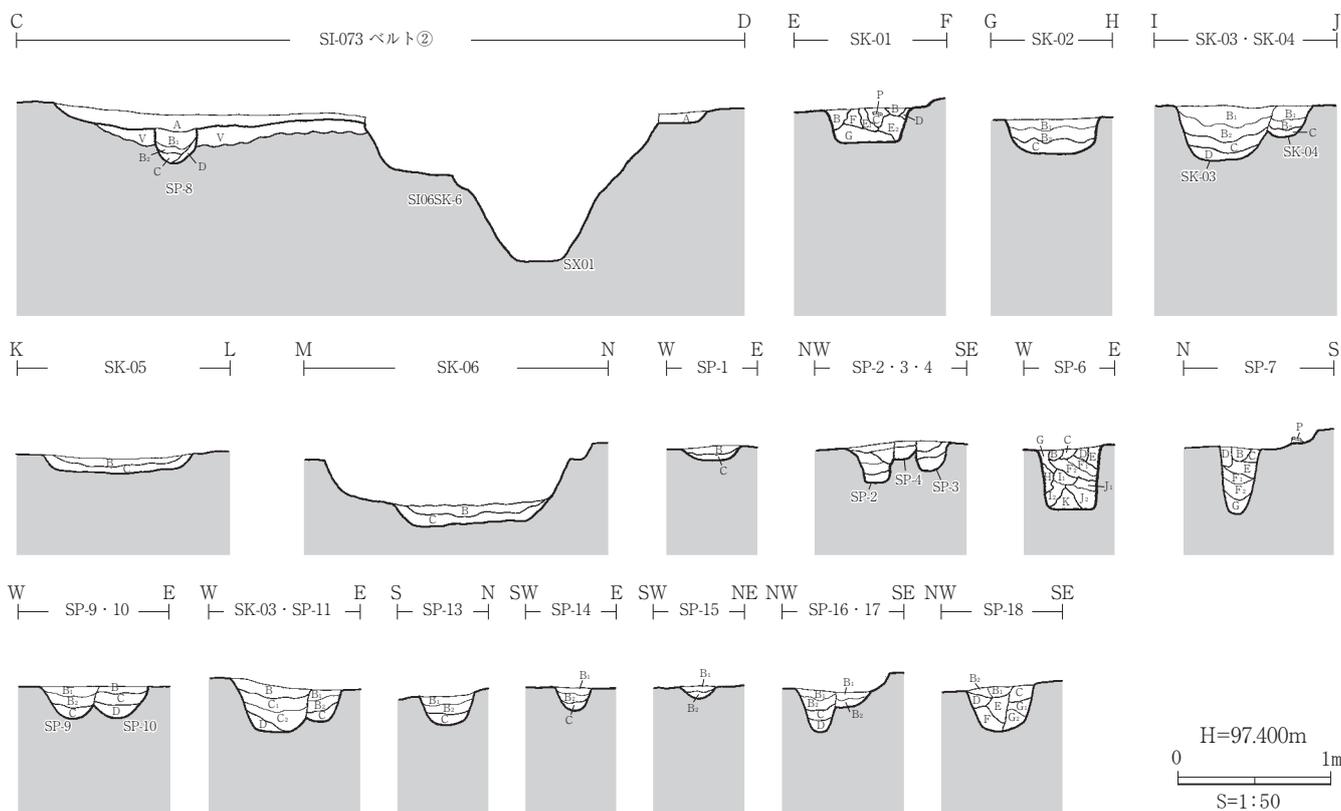
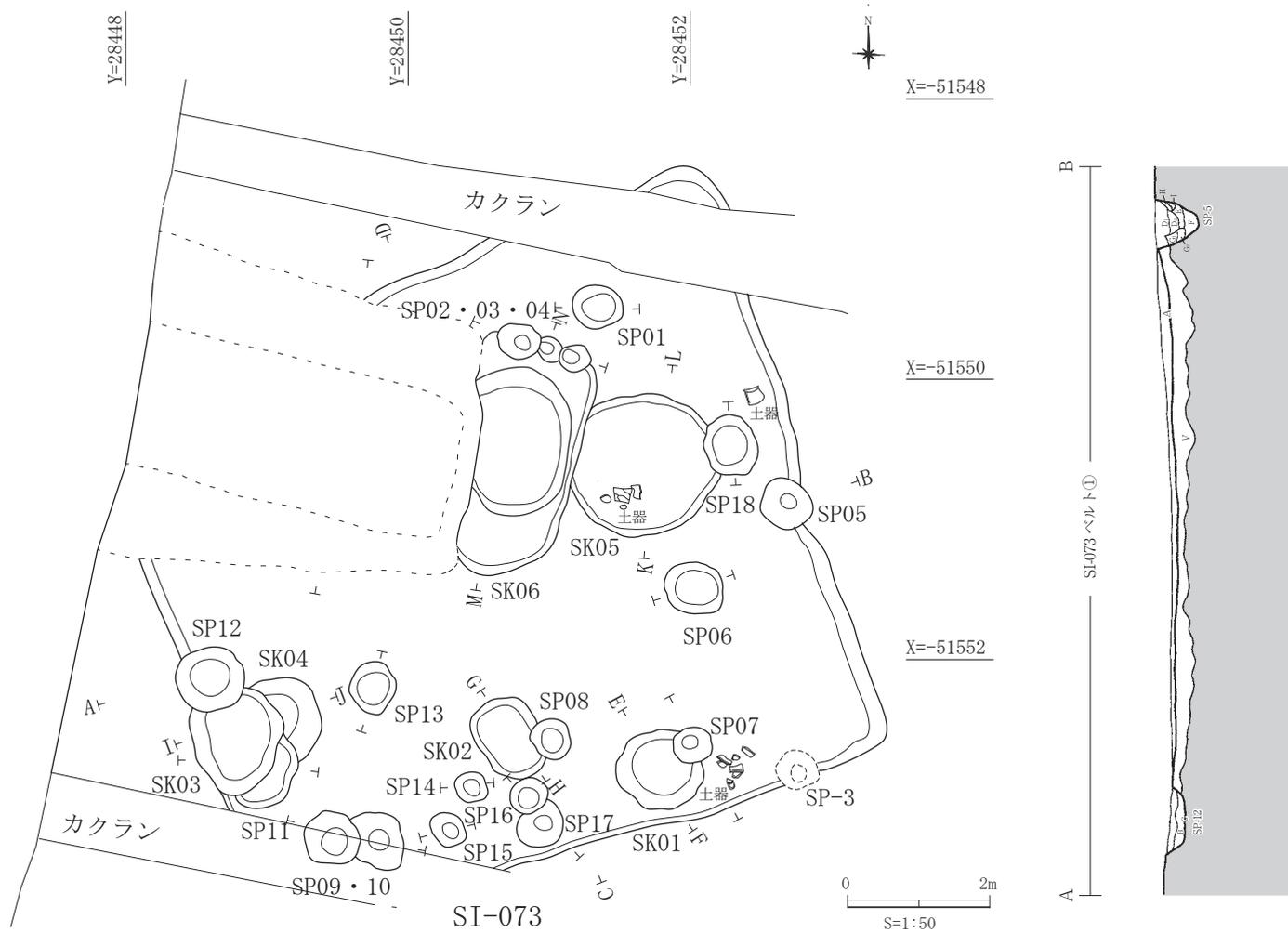
位置	調査区北側	平面形	不整楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層		
規模	上端 0.41m ~ 0.61m、下端 0.41m ~ 0.82m、深さは検出面から 0.13m をはかる。				
埋土	自然堆積。A 層 ~ B 層に大別しする。A 層は黒褐色土、B 層は褐色土を主体とする。				
壁の状況	緩やかに外傾して立ち上がる。				
出土遺物	国産陶器				

SK-204 土坑跡 (第 10 図)

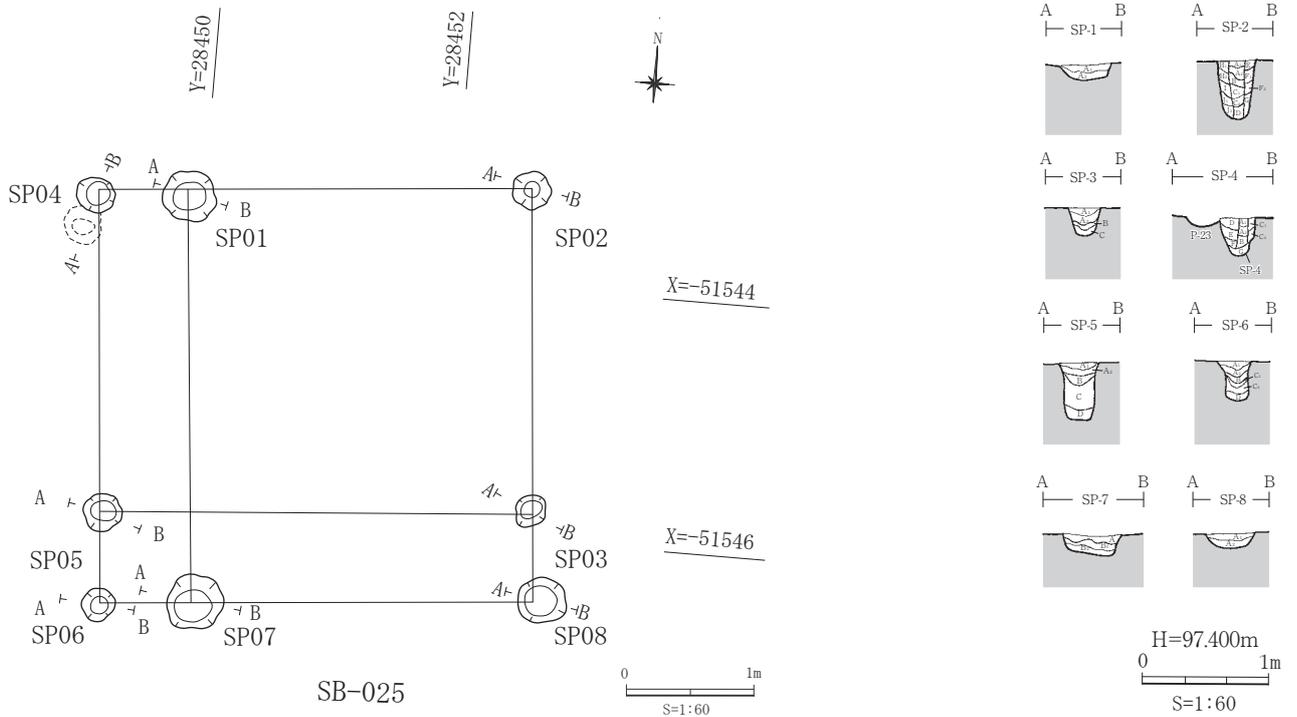
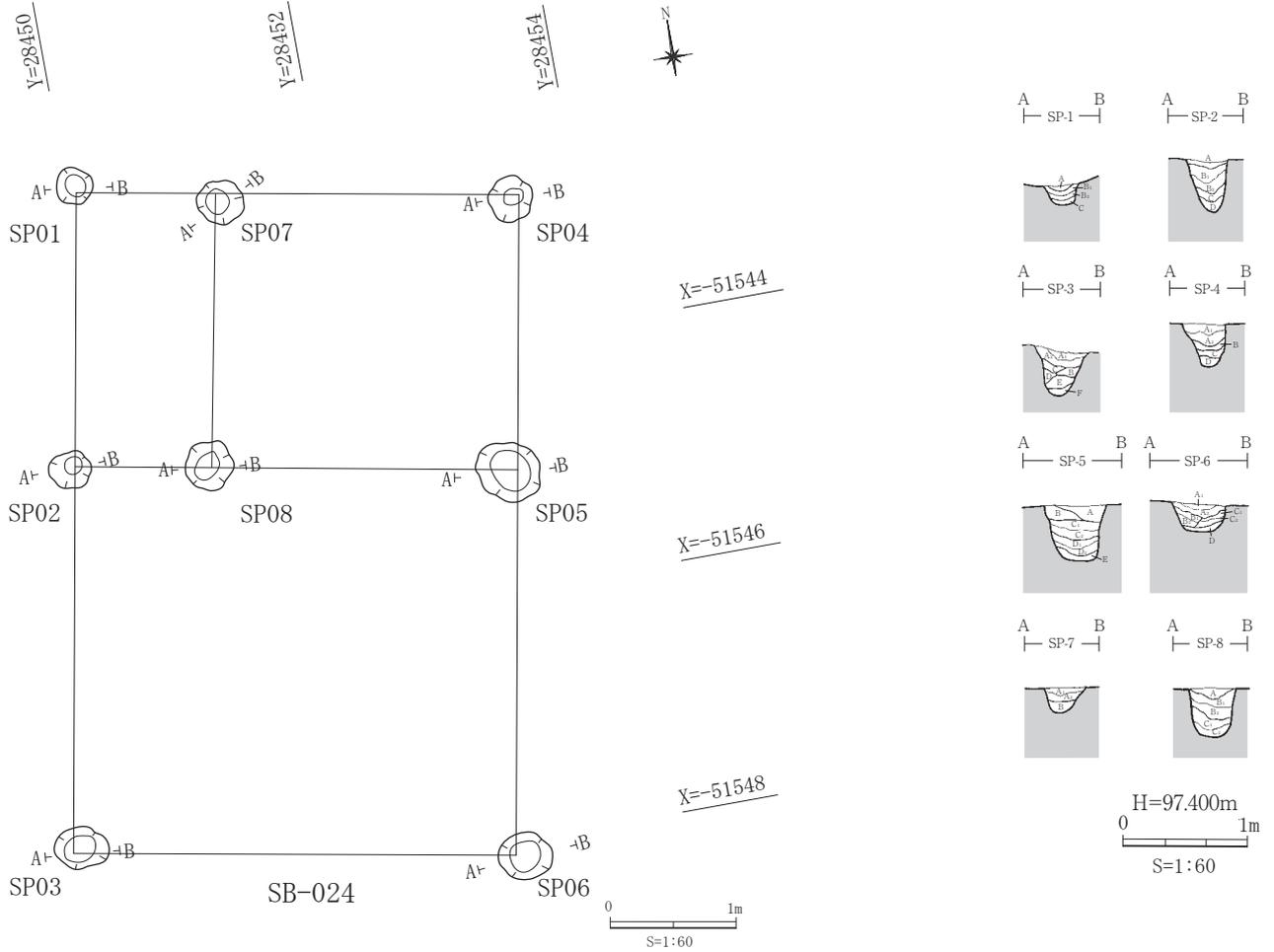
位置	調査区南西側	平面形	不整円形	重複関係	P28 に切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層		
規模	上端 1.68m 以上 ~ 2.42m、下端 1.31m ~ 2.02m、深さは検出面から 0.32m をはかる。				
埋土	自然堆積。A 層 ~ 層 L に大別し、B 層は 2 層に細分する。A 層は褐色土、B 層・F 層・K 層は黒褐色土、E 層・J 層は暗褐色土、C 層・I 層・L 層はにぶい黄褐色土、D 層・G 層は黄褐色土、H 層は黒色土を主体とする。				
壁の状況	緩やかに外傾して立ち上がる。				
出土遺物	なし				

No-029 陥し穴状遺構 (第 10 図)

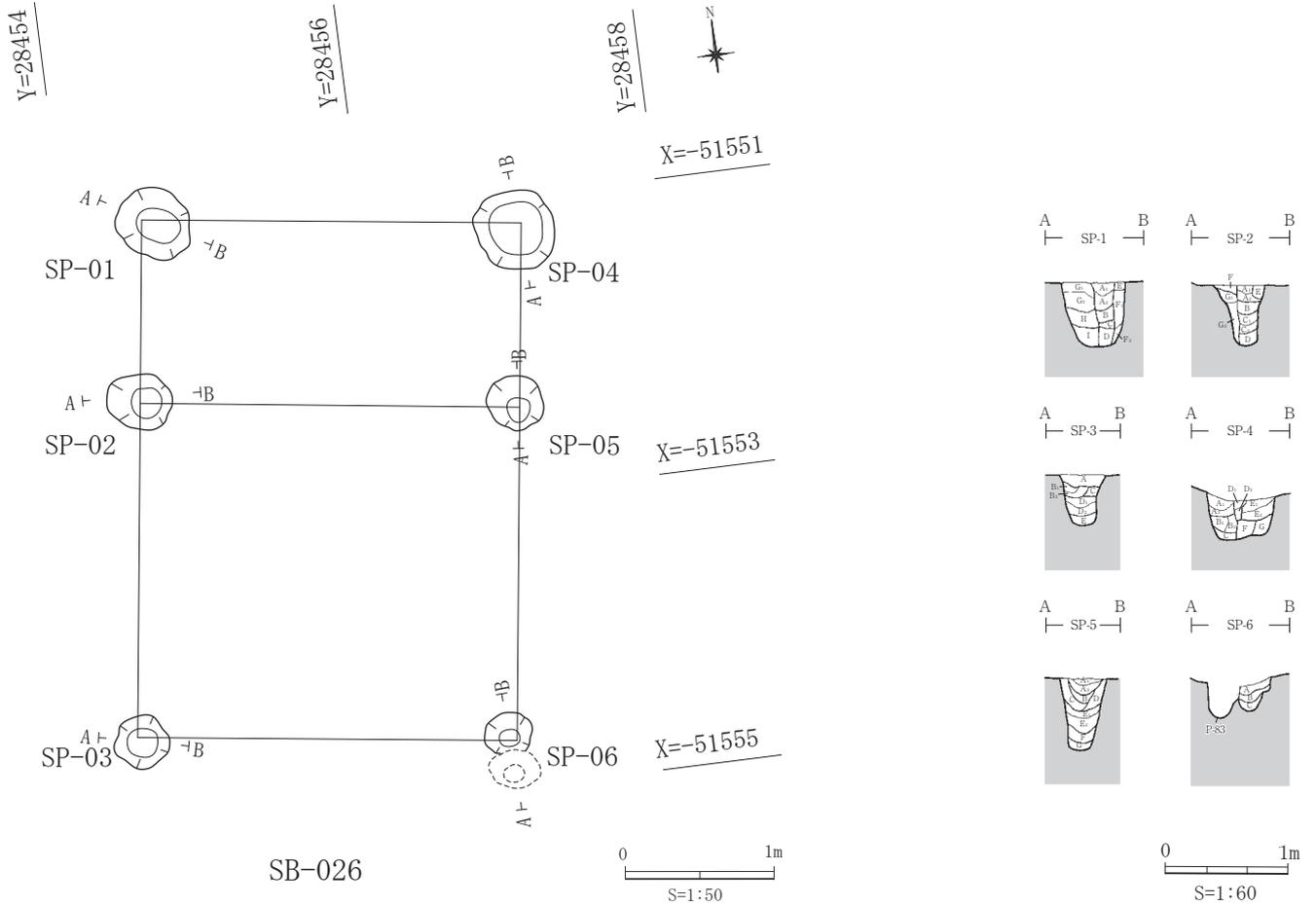
位置	調査区中央	平面形	不整長楕円	重複関係	SB-025 に切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層		
規模	上端 0.32m ~ 3.52m、下端 0.21m ~ 3.36m、深さは検出面から 0.62m をはかる。				
埋土	自然堆積。A 層 ~ E 層に大別し、B 層は 2 層に細分する。A 層は黒色土、B 層は褐色土、C 層は黒褐色土、D 層は暗褐色土、E 層は明黄褐色土を主体とする。				
壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる。				
底面の状況	平坦				
出土遺物	なし				



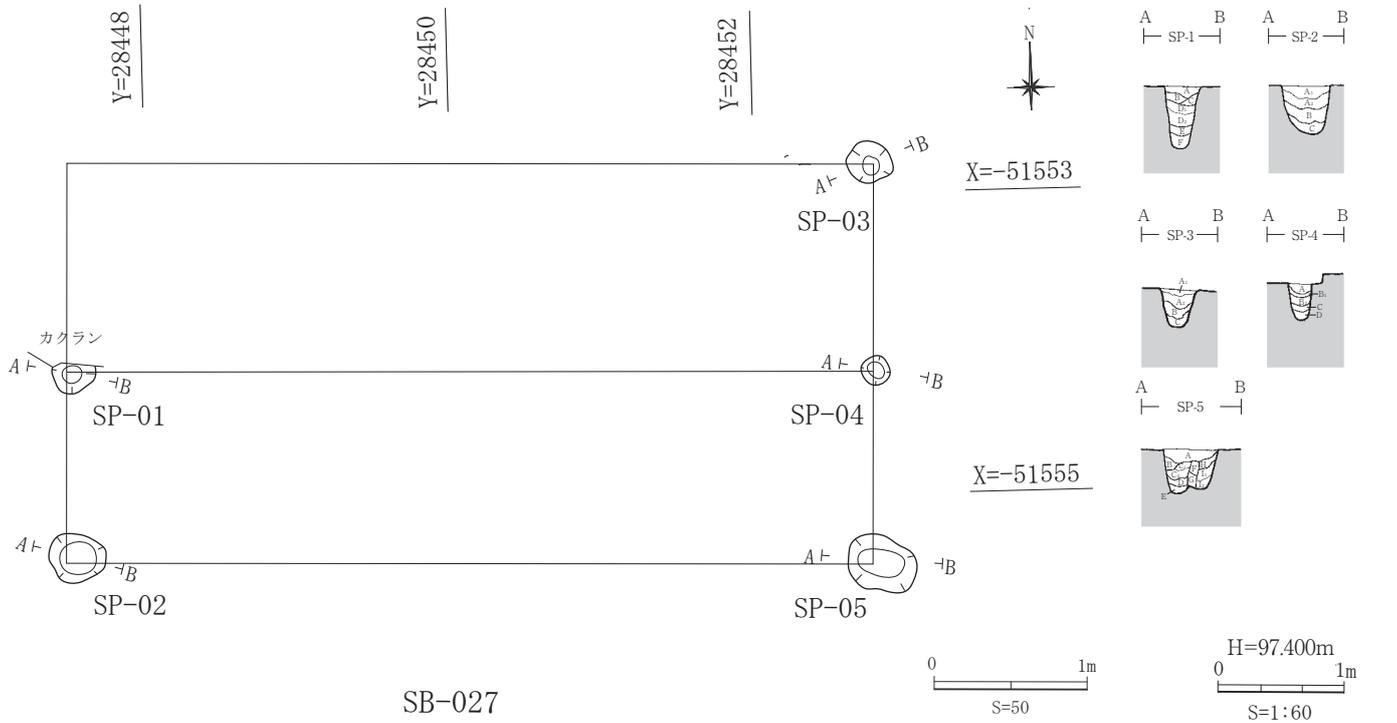
第6図 SI-073 竪穴建物跡 平面図・断面図 (1:50)



第 7 图 SB-024 · SB-025 掘立柱建物跡 平面図 · 断面図 (1:60)

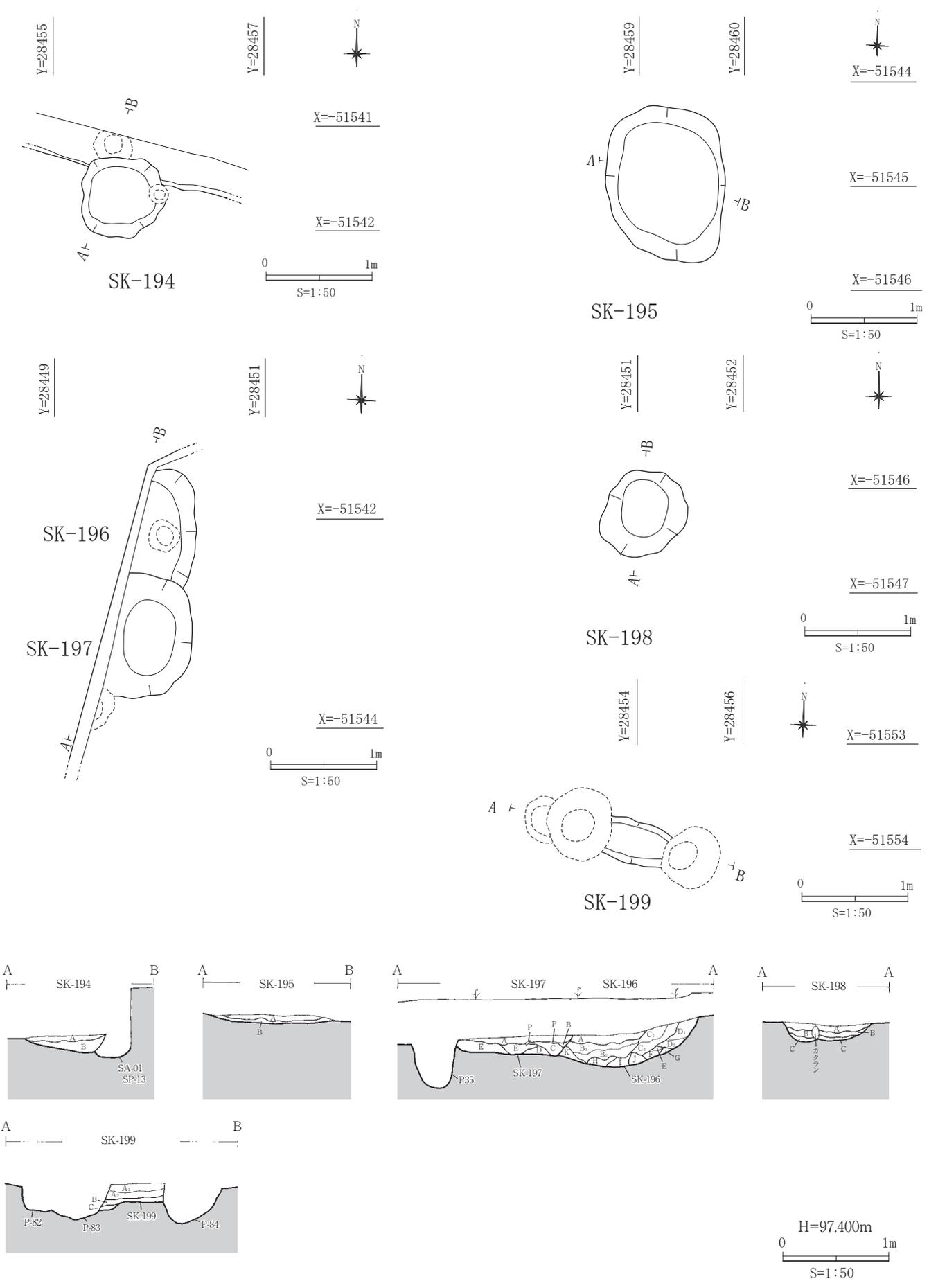


SB-026

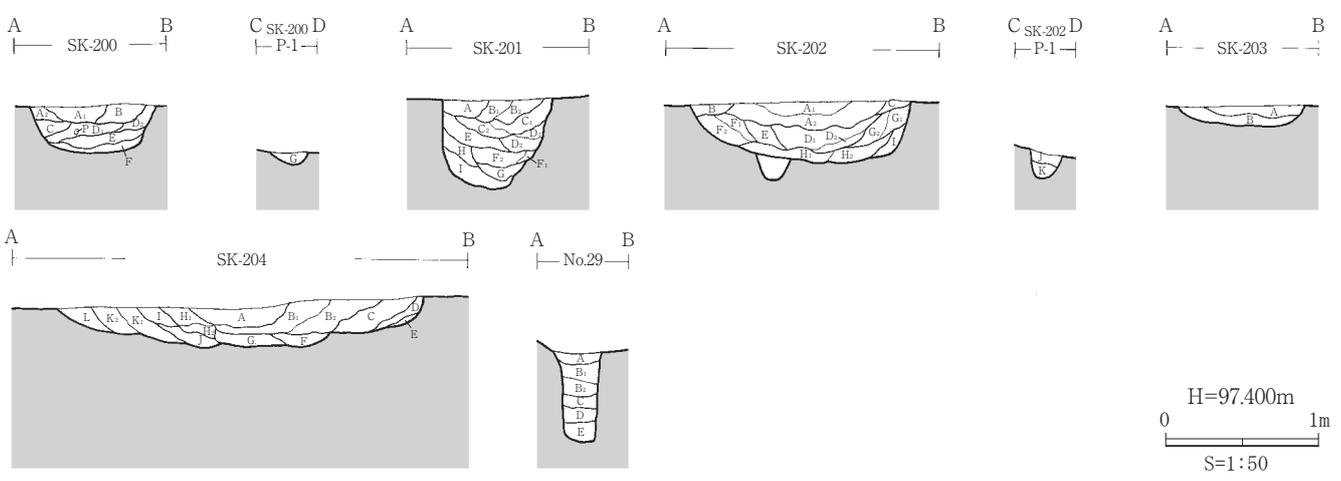
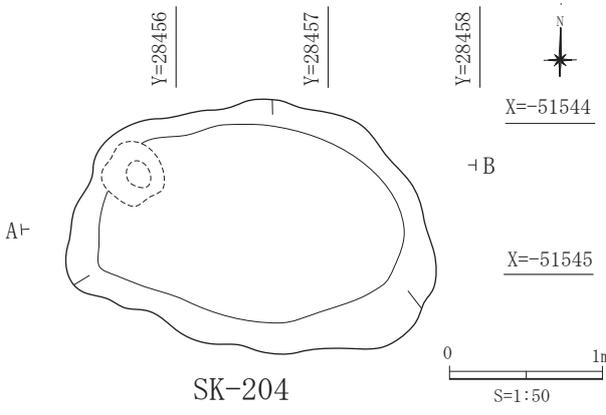
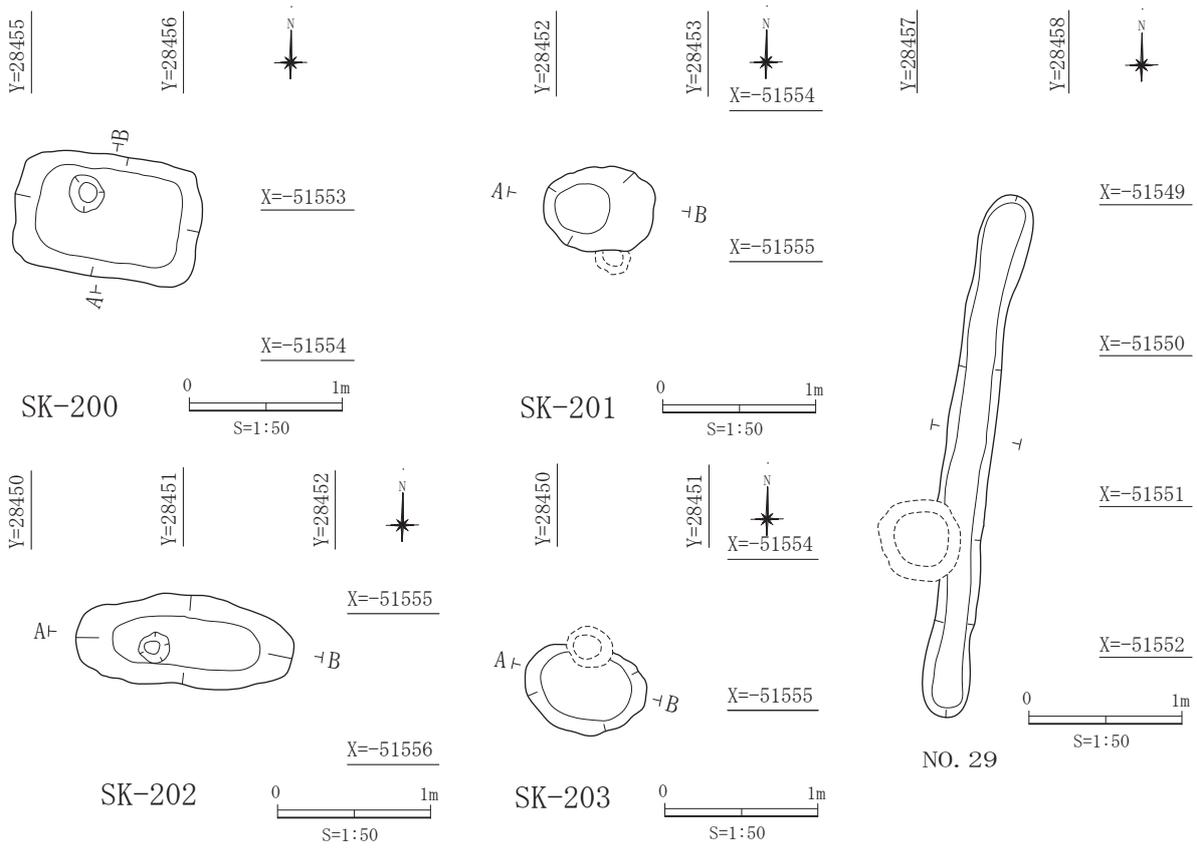


SB-027

第 8 図 SB-026・SB-027 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:50・1:60)



第9図 SK-194 ~ SK-199 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)



第 10 図 SK-200 ~ SK-204 土坑跡 No.29 陥し穴状遺構 平面図・断面図 (1:50)

SA-02 柵列跡 (第 11 図)

位 置	調査区北側	平面形	直線状に東西にのびる
重複関係	SK-194・P2・カクランに切られる。		
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層
規 模	上端 0.31m 以上～0.53m 以上、下端 0.29m 以上～0.46m 以上、深さは検出面から 0.11m～0.16m をはかる。		
埋 土	自然堆積。A 層に大別し、A 層は 2 層に細分する。A 層は黒褐色土を主体とする。		
壁の状況	緩やかに外傾して立ち上がる		
出土遺物	なし		

SD-065 堀跡 (第 13 図)

位 置	調査区南西側	平面形	直線状に東西にのびる
重複関係	SI-071 を切る		
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層
規 模	上端 2.28m～2.45m、下端 1.08m～2.24m、深さは検出面から 1.11m をはかる。		
埋 土	自然堆積。A 層～V 層に大別し、A 層・B 層・E 層・H 層・N 層・O 層・R 層は 2 層に細分する。A 層・E 層・Q 層は暗褐色土、B 層・G 層・M 層・R 層は褐色土、C 層・I 層・S 層は黒褐色土、D 層・H 層・J 層・P 層・T 層はにぶい黄褐色土、F 層・N 層は黒色土、K 層・O 層・V 層は黄褐色土、L 層・U 層は明黄褐色土を主体とする。		
壁の状況	底部付近よりやや外傾して立ち上がる。		
出土遺物	土師器坏・甕、須恵器坏・甕、国産陶器、かわらけ、土師質土器		

SD-066 堀跡 (第 13 図)

位 置	調査区南東側	平面形	直線状に東西にのびる
重複関係	なし		
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層
規 模	上端 1.98m～2.27m、下端 1.29m～1.42m、深さは検出面から 1.02m をはかる。		
埋 土	自然堆積。A 層～Q 層に大別し、A 層～E 層・H 層は 2 層に細分する。A 層・E 層は黒色土、B 層・J 層は黄褐色土、C 層・G 層・K 層は褐色土、D 層・H 層・O 層は黒褐色土、F 層・P 層は暗褐色土、I 層・M 層はにぶい黄褐色土、L 層はにぶい黄橙色土、N 層・Q 層は明黄褐色土を主体とする。		
壁の状況	底部付近よりやや外傾して立ち上がる。		
出土遺物	土師器坏・甕、須恵器坏・甕、国産陶器、かわらけ、土師質土器		

SD-067 溝跡 (第 11 図)

位 置	調査区北東側	平面形	直線状に東西にのびる
重複関係	P106・P107 に切られる		
掘込面	削平	検出面	黄褐色土シルト層

規 模 上端 0.27m ~ 0.24m、下端 0.08m ~ 0.11m、深さは検出面から 0.36m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ C 層に大別し、B 層は 2 層に細分する。A 層はにぶい黄褐色土、B 層は黒褐色土、C 層は明黄褐色土を主体とする。
壁の状況 北面はほぼ垂直に立ち上がり、南面は緩やかに直線状に立ち上がる。
出土遺物 なし

SD-068 溝跡 (第 11 図)

位 置 調査区北東側 平面形 直線状に東西にのびる
重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.41m ~ 0.48m、下端 0.12m ~ 0.18m、深さは検出面から 0.28m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ E 層に大別し、C 層は 2 層に細分する。A 層・E 層は褐色土、B 層は暗褐色土、C 層は灰褐色土、D 層は黒色土を主体とする。
壁の状況 北面は緩やかに直線状に立ち上がり、南面はほぼ垂直に立ち上がる。
出土遺物 なし

SD-069 溝跡 (第 11 図)

位 置 調査区北東側 平面形 直線状に東西にのびる
重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.34m ~ 0.38m、下端 0.1m ~ 0.21m、深さは検出面から 0.27m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ E 層に大別し、A 層はにぶい黄褐色土、B 層は褐色土、C 層は黄褐色土、D 層は黒色土、E 層は黒褐色土を主体とする。
壁の状況 北面はほぼ垂直に立ち上がり、南面は緩やかに直線状に立ち上がる。
出土遺物 なし

SD-070 溝跡 (第 11 図)

位 置 調査区北東側 平面形 直線状に東西にのびる
重複関係 なし
掘込面 削平 検出面 黄褐色土シルト層
規 模 上端 0.52m ~ 0.61m、下端 0.15m ~ 0.19m、深さは検出面から 0.23m をはかる。
埋 土 自然堆積。A 層 ~ E 層に大別し、C 層・D 層は 2 層に細分する。A 層は褐色土、B 層はにぶい黄褐色土、C 層は黒褐色土、D 層は暗褐色土、E 層はにぶい黄褐色土を主体とする。
壁の状況 北面は緩やかに直線状に立ち上がり、南面はほぼ垂直に立ち上がる。
出土遺物 なし

門 柱 1 (第 12 図)

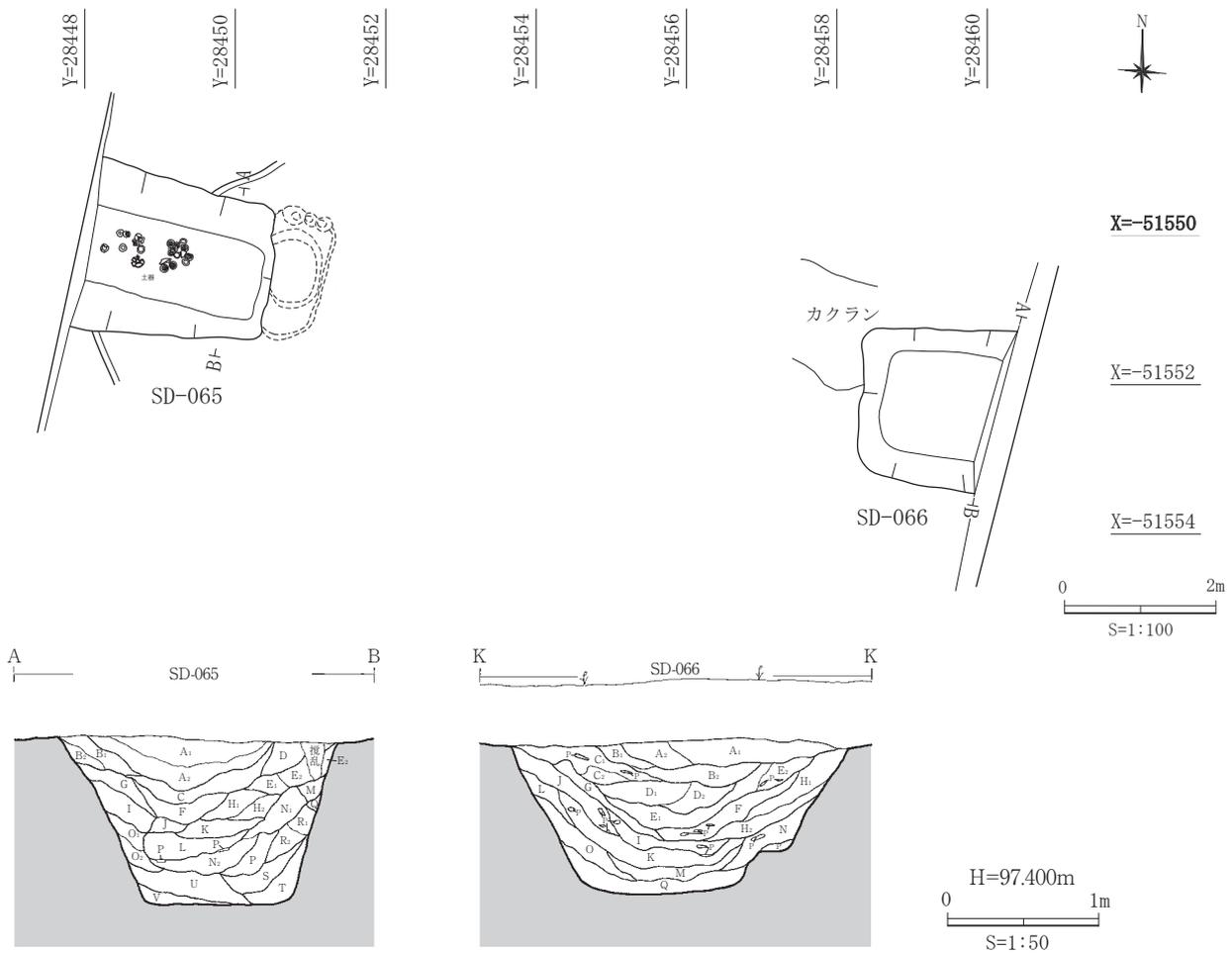
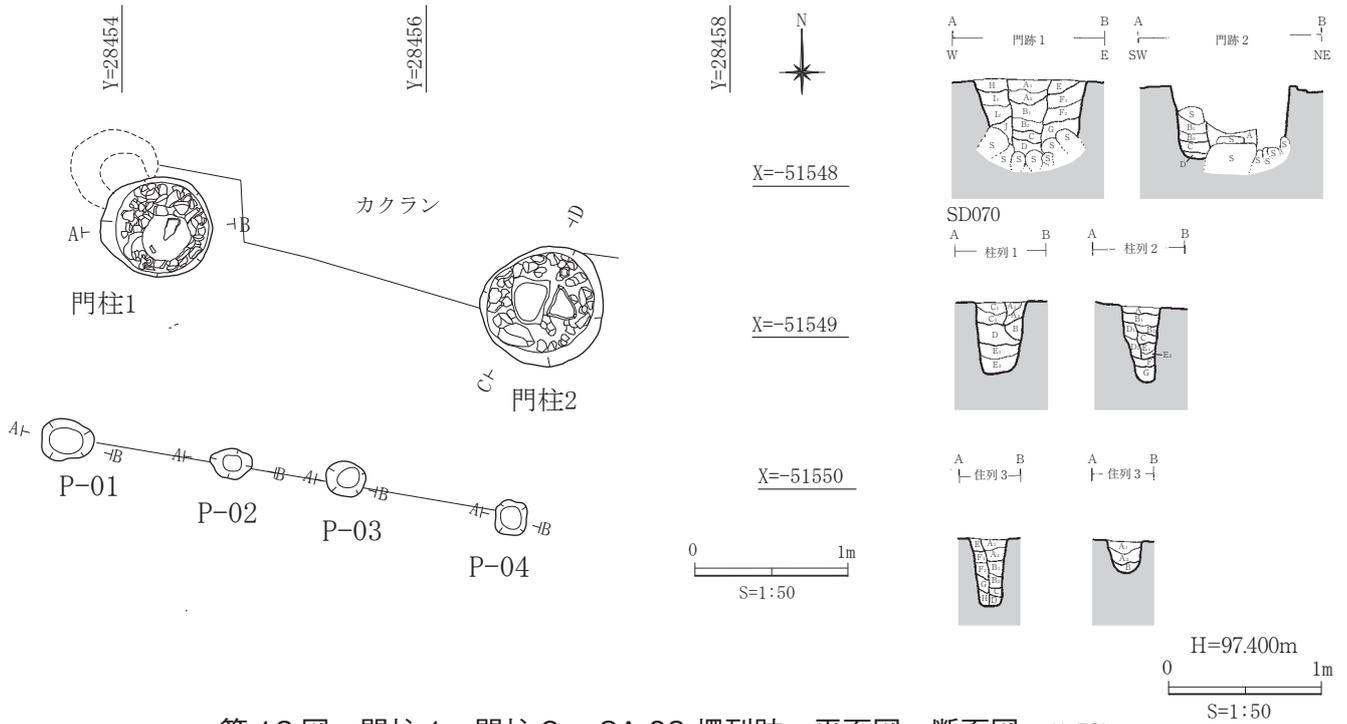
位 置	調査区中央	平面形	不整形円形
重複関係	P47 を切る		
掘 込 面	削平	検出面	黄褐色土シルト層
規 模	上端 0.69m ~ 0.75m、下端 0.58m ~ 0.60m、深さは検出面から 0.53m をはかる。		
埋 土	自然堆積。A 層 ~ J 層に大別し、A 層・B 層・F 層・I 層は 2 層に細分する。A 層は褐色土、B 層は暗褐色土、C 層は黒褐色土、D 層・F 層は黄褐色土、E 層は黒褐色、G 層・I 層は明黄褐色土、H 層はにぶい黄褐色土、は明黄褐色土、J 層はにぶい黄橙色土を主体とする。		
出土遺物	なし		

門 柱 2 (第 12 図)

位 置	調査区中央	平面形	不整形円形
重複関係	カクランに切られる		
掘 込 面	削平	検出面	黄褐色土シルト層
規 模	上端 0.74m ~ 0.85m、下端 0.65m ~ 0.74m、深さは検出面から 0.52m をはかる。		
埋 土	自然堆積。A 層 ~ D 層に大別され、B 層は 2 層に細分する。A 層は明黄褐色土、B 層は褐色土、C 層は暗褐色土、D 層は黒褐色土を主体とする。		
出土遺物	なし		

SA-03 柱列跡 (第 12 図)

位 置	調査区中央	平面形	東西に直線
重複関係	なし		
掘 込 面	削平	検出面	黄褐色土シルト層
規 模	全長 3m。P-01 上端 0.28m ~ 0.34m、深さは 0.48m、P-02 上端 0.21m ~ 0.27m、深さは検出面から 0.52m、P-03 上端 0.23m ~ 0.24m、深さは検出面から 0.47m、P-04 上端 0.23m ~ 0.24m、深さは検出面から 0.22m、をはかる。		
埋 土	自然堆積。P-01 は A 層 ~ E 層に大別し、A 層・C 層・E 層は 2 層に細分、P-02 は A 層 ~ G 層に大別し、B 層・D 層・E 層は 2 層に細分、P-03 は A 層 ~ H 層に大別し、A 層・B 層・F 層は 2 層に細分、P-04 は A 層 ~ B 層に大別し、A 層は 2 層に細分する。黒褐色土 ~ 明黄褐色土を主体とする。		
壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる。		
出土遺物	なし		



SI-073

A 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。カーボンを含む。

SK-194

A 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-195

A 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	明黄褐色土を主体に、黒色土を粉状～粒状に締まりは硬。土器を含む。

SK-196

A 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B1 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B2 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
C1 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C2 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E 層	褐色土を主体に、にぶい黄色土を粒状～塊状に締まりは中。
F 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
G 層	灰黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
I 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
J 層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
K 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-197

A 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
C 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
D 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F 層	明黄褐色土を主体に、灰黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-198

A 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-199

A1 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2 層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-200

A1 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表3 注記一覧表①

SK-201

A層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B1層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B2層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C1層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C2層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F1層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F2層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
I層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-202

A1層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2層	黒褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F1層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F2層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G1層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
G2層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H1層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
H2層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-203

A層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。国産陶器を含む。
B層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SK-204

A層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B1層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
H1層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H2層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
J層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
K1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
K2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
L層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表4 注記一覧表②

NO-029 陥し穴状遺構

A 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B1 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-065 堀跡

A1 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
A2 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B1 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B2 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
C 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
D 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
E1 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。礫を少し含む。
E2 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。礫を少し含む。
F 層	黒色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器を含む。
G 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
H1 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
H2 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
I 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
J 層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
K 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
L 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
M 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
N1 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。カーボンを含む。
N2 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
O1 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
O2 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
P 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
Q 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
R1 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
R2 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
S 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
T 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
U 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
V 層	黄褐色土を主体に、黒色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-066 堀跡

A1 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
A2 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B1 層	黄褐色土を主体に、灰黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
B2 層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
C1 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
C2 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
D1 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2 層	黒褐色土を主体に、灰黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。

表 5 注記一覧表③

E1層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器を含む。
E2層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
H1層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
H2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器を含む。
J層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
K層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
L層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
M層	にぶい黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
N層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
O層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
P層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。小礫を含む。
Q層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-067 ベルト①

A層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-067 ベルト② 溝跡

A層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-068 ベルト① 溝跡

A層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	灰黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D2層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-068 ベルト② 溝跡

A層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C1層	灰褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C2層	灰褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-069 ベルト① 溝跡

A層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。
D層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表6 注記一覧表④

SD-069 ベルト② 溝跡

A 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-070 ベルト① 溝跡

A 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C1 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SD-070 ベルト② 溝跡

A 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C1 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D2 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

門柱 1

A1 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B1 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F1 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。
F2 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。
G 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。
H 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I1 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。
I2 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。
J 層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

門柱 2

A 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。
B1 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SA-02

A1 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表 7 注記一覧表⑤

P1～P107 柱穴

柱穴は107口検出した。その内、柱痕跡が確認したのはP16、P17、P28、P33、P63、P79、P102、P106である。その他の柱穴に関しては、明確な柱痕跡を残すものはない。埋土は黒褐色土～褐色土を主体にするものが多い。各柱穴の上端・深さは次の通りである。

記号	上端 (cm)	深さ (cm)	記号	上端 (cm)	深さ (cm)	記号	上端 (cm)	深さ (cm)
P1	54	32	P37	22	20	P73	23	12
P2	38	8	P38	30	20	P74	18	34
P3	25	14	P39	26	11	P75	32	33
P4	20	21	P40	13	5	P76	32	27
P5	17	19	P41	22	33	P77	31	21
P6	43	32	P42	25	16	P78	50	34
P7	23	14	P43	24	13	P79	28	21
P8	18	11	P44	32	11	P80	26	8
P9	46	22	P45	31	47	P81	23	14
P10	33	28	P46	23	34	P82	32	16
P11	19	12	P47	46	38	P83	62	33
P12	53	14	P48	28	42	P84	53	36
P13	26	7	P49	23	18	P85	25	16
P14	52	17	P50	34	18	P86	26	25
P15	60	8	P51	46	22	P87	32	21
P16	46	49	P52	26	42	P88	32	43
P17	27	32	P53	25	51	P89	29	51
P18	22	9	P54	32	23	P90	46	48
P19	41	11	P55	37	7	P91	33	57
P20	28	31	P56	31	16	P92	32	18
P21	27	16	P57	15	12	P93	48	62
P22	27	7	P58	30	14	P94	22	71
P23	35	16	P59	34	26	P95	38	53
P24	26	24	P60	19	8	P96	50	48
P25	23	8	P61	22	34	P97	39	32
P26	26	7	P62	38	26	P98	30	13
P27	31	8	P63	35	40	P99	21	43
P28	43	58	P64	22	24	P100	25	23
P29	38	12	P65	26	52	P101	19	18
P30	40	11	P66	37	17	P102	43	38
P31	32	28	P67	32	14	P103	37	16
P32	54	19	P68	26	9	P104	38	53
P33	34	44	P69	24	12	P105	37	23
P34	42	44	P70	36	33	P106	28	35
P35	33	10	P71	27	29	P107	31	36
P36	29	18	P72	40	25			

表8 P1～P107 柱穴 規模一覧表



第 14 图 P1 ~ P107 柱穴 断面图 (1:100)

(2) 出土遺物 (第 15 図～第 22 図)

1) 土師器

SI-073 から 2 点。1・3 は土師器 坏である。1 は口～底部で口径が 13.8cm をはかり、内面に内黒処理とヘラミガキ調整が施され、回転糸切無調整である。また、外面には墨書文字が認められるが、判読不明である。3 は体～底部で、底径が 6.3cm をはかり、回転糸切再調整である。

SI-073 内 Pit3 から 1 点。2 は土師器 坏である。2 は口～底部で口径が 13.7cm をはかり、口縁部ヨコナデ調整が施され、回転糸切再調整である。

2) あかやき土器

SK-192 から 3 点。4・5・6 はあかやき土器 甕である。4 は口～体部で口径が 14.4cm をはかる。5 は口～体部で口径が 22.5cm をはかり内外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整を施す。6 は口～体部で口径が 24.1cm をはかり、外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整を施す。

SK-197 から 3 点。10・11・12 はあかやき土器 坏である。10 は口～底部で口径が 13.8cm をはかり、回転糸切再調整である。11 は口～底部で口径が 13.1cm をはかり、回転糸切無調整である。12 は口～体部で口径が 13.4cm をはかる。

3) 須恵器

SI-073 から 3 点。7・8・9 は須恵器 甕である。7・8・9 は体部で厚さ 1.0cm～1.4cm をはかり、外面タタキメ、内面当て具が施されている。SD-065 から 2 点。93・94・95 は須恵器 甕である。93 は体部で厚さ 0.9cm をはかり、外面タタキメ、内面当て具が施されている。94 は体部で厚さ 1.3cm をはかり、外面タタキメが施されている。95 は口縁部で厚さ 0.7cm をはかり内面自然釉が見られる。

かわらけ・土師質土器

SD-065 堀跡から 79 点。69・79 はロクロ成形で、口径は 6.4cm～7.9cm をはかる。13～23・25～27・29・31・36～42・46～47・53～55・58・60～61・68・72・73・76～78・80～84・88～92 はロクロ成形で、口径は 8.0cm～8.9cm をはかる。24・28・30・32～34・43・44・48～52・56・57・62～64・75・85～87 はロクロ成形で、口径は 9.0cm～9.9cm をはかる。35・65～67・70 はロクロ成形で、口径は 11.8cm～15.8cm をはかる。また、33・42・53・76・82 は底面にスノコ痕を有する。59・74 は手づくね成形で、口径は 10.8cm～11.8cm をはかる。45 はロクロ成形の土師質土器で、口径が 15.1cm をはかる。

SD-066 堀跡から 70 点。141・142・154・157・161 はロクロ成形で、口径は 6.4cm～7.8cm をはかる。97・100～106・108・110・111・118～120・128・132～134・137・138・140・148・149・152・153・155・156・158～160・162～164 はロクロ成形で、口径は 8.0cm～9.9cm をはかる。98・99・107・109・116・121・124・129 はロクロ成形で、口径は 8.9cm～9.0cm をはかる。112・113・115・125～127・130・135・136・150・165・166 はロクロ成形で、口径は 11.8cm～15.8cm をはかる。また、100・105～108・110・115・121・123・128・130・135・144・145 は底面にスノコ痕を有する。114・117・131・139 は手づくね成形で、口径は 10.0cm～14.0cm をはかる。145 は土師質土器で、口径が 14.5cm をはかる。

4) 陶器

SD-066 から 1 点。96 は渥美産壺で、格子状押印が施され厚さは 1.4cm をはかる。

5) 土製品

SD-065 から 1 点。71 は土錘である。長辺 5.6cm、短辺 1.8cm、孔径 0.3cm をはかる。また、中央部に刻書「王」・・？が施されている。

土師器・あかやき土器

番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
1	SI-073	焼土	土師器 坏	ロク口	13.8	4.6	4.7	75	墨書、口～底部、内面内黒ヘラミガキ、回転糸切無調整
2	SI-073P3	A 層	土師器 坏	ロク口	13.7	6.8	5.1	25	口～底部、回転糸切再調整
3	SI-073	A 層	土師器 坏	ロク口	—	6.3	3.1	35	体部～底部、底部マメツ、回転糸切無調整
4	SI-073P5	A2 層	あかやき 甕	ロク口	14.4	—	15.1	35	口～体部、内外面ヘラナデ
5	SI-073	A 層	あかやき 甕	ロク口	22.5	—	15.8	35	口～体部、外面ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ
6	SI-073	A 層	あかやき 甕	ロク口	24.1	—	14.5	25	口～体部、外面ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ
10	SK-197	A 層	あかやき 坏	ロク口	13.8	4.6	4.6	35	口～底部、回転糸切無調整
11	SK-197	A 層	あかやき 坏	ロク口	13.1	5.4	5.1	95	口～底部、回転糸切再調整
12	SK-197	A 層	あかやき 坏	ロク口	13.4	—	3.4	20	口～体部

須恵器

番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	残存率 (%)	備 考
7	SI-073	A 層	須恵器 甕	ロク口	5.6	12.5	0.9	-	体部、大甕、外面タタキメ、内面当て具
8	SI-073	A 層	須恵器 甕	ロク口	8.4	7.8	1.1	-	体部、大甕、外面タタキメ、内面当て具
9	SI-073	A 層	須恵器 甕	ロク口	6.2	7.2	1.2	-	体部、大甕、外面タタキメ、内面当て具
93	SD-065	A1 層	須恵器 甕	ロク口	9.4	15.1	0.9	-	体部、外面タタキメ、内面当て具
94	SD-065	A1 層	須恵器 甕	ロク口	8.2	5.9	1.3	-	体部、外面タタキメ、内面当て具
95	SD-065	H1 層	須恵器 鉢	ロク口	8.5	3.5	0.7	-	口縁部、内面自然釉

陶器

番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	残存率 (%)	備 考
96	SD-066	A2 層	甕	ロク口	4.8	3.7	1.4	小破片	肩部、外面自然釉、渥美産

土製品

番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	長辺 (cm)	短辺 (cm)	孔径 (cm)	残存率 (%)	備 考
71	SD-065	F 層	土錘	—	5.6	1.8	0.3	100	刻書「王」？

表 9 出土遺物一覧表①

かわらけ・土師質土器

番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
13	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.1	6.1	1.8	65	口～底部、回転糸切無調整
14	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.0	5.9	1.9	65	口～底部、回転糸切無調整
15	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.2	5.9	1.8	80	口～底部、回転糸切無調整
16	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.4	5.8	1.6	100	口～底部、回転糸切無調整
17	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.4	6.1	1.9	80	口～底部、回転糸切無調整
18	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.3	5.8	1.6	100	口～底部、回転糸切無調整
19	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.6	6.2	1.6	100	口～底部、回転糸切無調整
20	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.4	6.5	1.8	67	口～底部、回転糸切無調整
21	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.6	6.2	1.6	70	口～底部、回転糸切無調整
22	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.9	6.1	1.6	80	口～底部、回転糸切無調整
23	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.5	5.7	2.0	85	口～底部、回転糸切無調整
24	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	9.0	6.0	1.9	100	口～底部、回転糸切無調整
25	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.9	5.3	1.8	100	口～底部、回転糸切無調整
26	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.9	6.1	1.9	80	口～底部、回転糸切無調整
27	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.8	5.9	2.1	100	口～底部、回転糸切無調整
28	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	9.0	6.4	1.9	80	口～底部、回転糸切無調整
29	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.9	5.9	2.3	65	口～底部、回転糸切無調整
30	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	9.0	6.0	1.7	100	口～底部、回転糸切無調整
31	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	8.9	6.5	1.8	65	口～底部、回転糸切無調整
32	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	9.1	6.7	1.7	60	口～底部、回転糸切無調整
33	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	9.9	7.9	2.4	80	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
34	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	9.8	6.8	2.3	80	口～底部、回転糸切無調整
35	SD-065	V層	かわらけ	ロク口	14.0	8.1	4.2	100	口～底部、回転糸切無調整
36	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.3	5.8	1.7	100	口～底部、回転糸切無調整
37	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.1	5.8	1.9	100	口～底部、回転糸切無調整
38	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.8	6.3	2.0	100	口～底部、回転糸切無調整
39	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.0	6.6	1.5	100	口～底部、回転糸切無調整、ゆがみ大
40	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.9	6.4	1.7	65	口～底部、回転糸切無調整、ゆがみ大
41	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.9	6.6	1.9	65	口～底部、回転糸切無調整
42	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	8.8	6.3	2.3	80	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
43	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	9.5	6.7	2.0	80	口～底部、回転糸切無調整
44	SD-065	T層	かわらけ	ロク口	9.2	6.8	1.8	100	口～底部、回転糸切無調整
45	SD-065	T層	土師質土器	ロク口	15.1	8.6	5.1	75	口～底部、回転糸切無調整
46	SD-065	L層	かわらけ	ロク口	8.1	5.7	1.7	100	口～底部、回転糸切無調整
47	SD-065	L層	かわらけ	ロク口	8.6	5.8	1.6	100	口～底部、回転糸切無調整
48	SD-065	L層	かわらけ	ロク口	9.0	6.6	1.8	65	口～底部、回転糸切無調整
49	SD-065	L層	かわらけ	ロク口	9.1	6.3	2.1	65	口～底部、回転糸切無調整
50	SD-065	L層	かわらけ	ロク口	9.0	6.0	1.7	80	口～底部、回転糸切無調整
51	SD-065	L層	かわらけ	ロク口	9.5	6.3	2.0	100	口～底部、回転糸切無調整
52	SD-065	K層	かわらけ	ロク口	9.4	6.0	2.1	70	口～底部、回転糸切無調整
53	SD-065	J層	かわらけ	ロク口	8.7	6.0	2.0	80	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
54	SD-065	J層	かわらけ	ロク口	8.6	6.4	1.9	50	口～底部、回転糸切無調整
55	SD-065	J層	かわらけ	ロク口	8.9	5.8	2.0	70	口～底部、回転糸切無調整
56	SD-065	J層	かわらけ	ロク口	9.2	6.8	1.9	80	口～底部、回転糸切無調整、ゆがみ大
57	SD-065	J層	かわらけ	ロク口	9.1	6.7	1.7	70	口～底部、回転糸切無調整
58	SD-065	I層	かわらけ	ロク口	8.3	5.8	1.6	70	口～底部、回転糸切無調整
59	SD-065	I層	かわらけ	手づくね	11.8	—	3.1	25	口～底部
60	SD-065	G層	かわらけ	ロク口	8.0	5.3	1.8	70	口～底部、回転糸切無調整
61	SD-065	G層	かわらけ	ロク口	8.8	6.1	2.0	70	口～底部、回転糸切無調整
62	SD-065	G層	かわらけ	ロク口	9.1	6.0	2.1	80	口～底部、回転糸切無調整

表 10 出土遺物一覧表②

かわらけ・土師質土器

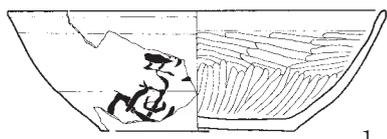
番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備考
63	SD-065	G層	かわらけ	ロクロ	9.0	5.2	1.9	70	口～底部、回転糸切無調整
64	SD-065	G層	かわらけ	ロクロ	9.1	6.4	1.7	100	口～底部、回転糸切無調整
65	SD-065	G層	かわらけ	ロクロ	14.5	7.4	4.1	70	口～底部、回転糸切無調整
66	SD-065	G層	かわらけ	ロクロ	13.5	6.7	4.0	80	口～底部、回転糸切無調整
67	SD-065	G層	かわらけ	ロクロ	12.1	6.2	4.0	50	口～底部、回転糸切無調整
68	SD-065	F層	かわらけ	ロクロ	8.4	6.5	2.1	50	口～底部、回転糸切無調整
69	SD-065	F層	かわらけ	ロクロ	7.8	5.1	1.7	70	口～底部、回転糸切無調整
70	SD-065	F層	かわらけ	ロクロ	15.8	9.0	4.5	65	口～底部、回転糸切無調整
72	SD-065	E1層	かわらけ	ロクロ	8.4	6.2	1.8	70	口～底部、回転糸切無調整
73	SD-065	E1層	かわらけ	ロクロ	8.6	5.5	1.9	70	口～底部、回転糸切無調整
74	SD-065	E2層	かわらけ	手づくね	10.8	—	3.1	30	口～底部
75	SD-065	C層	かわらけ	ロクロ	9.0	6.3	1.8	70	口～底部、回転糸切無調整
76	SD-065	C層	かわらけ	ロクロ	8.6	6.1	1.7	65	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
77	SD-065	C層	かわらけ	ロクロ	8.1	5.3	1.5	30	口～底部、回転糸切無調整
78	SD-065	C層	かわらけ	ロクロ	8.6	5.5	1.7	70	口～底部、回転糸切無調整
79	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	7.9	5.5	1.8	65	口～底部、回転糸切無調整
80	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	8.5	5.8	1.8	80	口～底部、回転糸切無調整
81	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.3	2.0	100	口～底部、回転糸切無調整
82	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	8.6	5.9	2.0	100	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
83	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	8.2	5.5	1.7	65	口～底部、回転糸切無調整
84	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	8.1	5.8	1.8	70	口～底部、回転糸切無調整
85	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	9.0	6.8	1.6	100	口～底部、回転糸切無調整、白色系
86	SD-065	A2層	かわらけ	ロクロ	9.4	7.1	2.4	75	口～底部、回転糸切無調整、白色系
87	SD-065	A1層	かわらけ	ロクロ	9.1	7.6	2.1	80	口～底部、回転糸切無調整、白色系
88	SD-065	A1層	かわらけ	ロクロ	8.9	6.2	1.5	70	口～底部、回転糸切無調整
89	SD-065	A1層	かわらけ	ロクロ	8.1	6.4	2.2	70	口～底部、回転糸切無調整
90	SD-065	A1層	かわらけ	ロクロ	8.7	5.8	2.1	35	口～底部、回転糸切無調整
91	SD-065	A1層	かわらけ	ロクロ	8.1	5.6	2.3	50	口～底部、回転糸切無調整
92	SD-065	A1層	かわらけ	ロクロ	8.9	6.3	2.1	70	口～底部、回転糸切無調整
97	SD-066	L層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.2	2.0	85	口～底部、回転糸切無調整
98	SD-066	L層	かわらけ	ロクロ	9.0	6.1	2.1	75	口～底部、回転糸切無調整
99	SD-066	L層	かわらけ	ロクロ	9.6	7.1	1.9	100	口～底部、回転糸切無調整
100	SD-066	K層	かわらけ	ロクロ	8.5	6.7	1.6	80	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
101	SD-066	K層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.2	1.6	85	口～底部、回転糸切無調整
102	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	8.4	7.2	1.7	60	口～底部、回転糸切無調整
103	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	8.4	5.7	1.6	100	口～底部、回転糸切無調整
104	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	8.7	7.3	1.5	100	口～底部、回転糸切無調整
105	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	8.4	7.2	2.1	60	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
106	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.4	2.4	100	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
107	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	9.5	7.3	1.8	75	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
108	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	9.1	6.2	2.2	60	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
109	SD-066	I層	かわらけ	ロクロ	9.0	6.0	1.2	70	口～底部、回転糸切無調整
110	SD-066	F層	かわらけ	ロクロ	8.9	6.1	2.1	70	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
111	SD-066	F層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.7	2.2	65	口～底部、回転糸切無調整
112	SD-066	F層	かわらけ	ロクロ	15.0	9.6	4.5	45	口～底部、回転糸切無調整
113	SD-066	F層	かわらけ	ロクロ	13.9	7.0	3.8	40	口～底部、回転糸切無調整
114	SD-066	E1層	かわらけ	手づくね	14.0	—	3.1	100	口～底部
115	SD-066	E1層	かわらけ	ロクロ	13.9	8.2	4.8	100	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
116	SD-066	E2層	かわらけ	ロクロ	9.1	6.2	1.7	100	口～底部、回転糸切無調整、白色系、ゆがみ
117	SD-066	D2層	かわらけ	手づくね	14.0	—	4.3	30	口～底部

表 11 出土遺物一覧表③

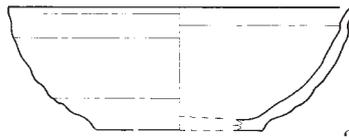
かわらけ・土師質土器

番号	遺構名	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
118	SD-066	D2層	かわらけ	ロクロ	8.6	6.0	2.0	85	口～底部、回転糸切無調整
119	SD-066	D2層	かわらけ	ロクロ	8.4	5.9	2.2	80	口～底部、回転糸切無調整
120	SD-066	D2層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.2	2.3	100	口～底部、回転糸切無調整
121	SD-066	D2層	かわらけ	ロクロ	9.0	7.1	1.5	100	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
122	SD-066	D1層	かわらけ	ロクロ	8.4	5.5	2.1	30	口～底部、回転糸切無調整
123	SD-066	D1層	かわらけ	ロクロ	8.2	5.1	2.2	100	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
124	SD-066	D1層	かわらけ	ロクロ	9.2	7.1	2.1	100	口～底部、回転糸切無調整
125	SD-066	D1層	かわらけ	ロクロ	15.9	8.9	4.9	50	口～底部、回転糸切無調整
126	SD-066	D1層	かわらけ	ロクロ	12.8	8.2	4.8	30	口～底部、回転糸切無調整
127	SD-066	D1層	かわらけ	ロクロ	14.6	8.5	4.7	35	口～底部、回転糸切無調整
128	SD-066	C2層	かわらけ	ロクロ	8.6	6.6	2.1	100	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
129	SD-066	C2層	かわらけ	ロクロ	9.1	7.0	2.6	100	口～底部、回転糸切無調整
130	SD-066	C2層	かわらけ	ロクロ	14.2	7.1	4.9	70	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
131	SD-066	C1層	かわらけ	手づくね	10.2	—	2.0	100	口～底部
132	SD-066	C1層	かわらけ	ロクロ	8.7	6.2	1.5	60	口～底部、回転糸切無調整
133	SD-066	C1層	かわらけ	ロクロ	8.6	6.0	1.7	30	口～底部、回転糸切無調整
134	SD-066	C1層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.1	2.1	100	口～底部、回転糸切無調整
135	SD-066	C1層	かわらけ	ロクロ	13.9	8.1	4.9	50	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
136	SD-066	C1層	かわらけ	ロクロ	14.0	8.0	4.1	35	口～底部、回転糸切無調整
137	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	8.0	6.0	2.1	55	口～底部、回転糸切無調整
138	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	8.2	6.1	1.9	85	口～底部、回転糸切無調整
139	SD-066	B2層	かわらけ	手づくね	10.0	—	2.0	25	口～底部
140	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	8.2	6.0	1.9	85	口～底部、回転糸切無調整
141	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	7.2	6.4	2.1	30	口～底部、回転糸切無調整
142	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	6.4	4.2	1.6	25	口～底部、回転糸切無調整
143	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	—	5.8	1.3	35	体部～底部、回転糸切無調整
144	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	8.4	6.1	4.4	50	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
145	SD-066	B2層	土師質土器	ロクロ	14.5	8.4	4.9	70	口～底部、回転糸切無調整、スノコ痕
146	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	—	7.4	—	35	体部～底部、回転糸切無調整、白色系
147	SD-066	B2層	かわらけ	ロクロ	—	6.0	—	35	体部～底部、回転糸切無調整、白色系
148	SD-066	B1層	かわらけ	ロクロ	8.0	6.6	1.6	50	口～底部、回転糸切無調整、白色系
149	SD-066	B1層	かわらけ	ロクロ	8.1	6.4	2.2	70	口～底部、回転糸切無調整
150	SD-066	B1層	かわらけ	ロクロ	15.5	7.0	3.4	35	口～底部、回転糸切無調整
151	SD-066	B1層	かわらけ	ロクロ	—	8.4	—	35	体部～底部、回転糸切無調整
152	SD-066	A2層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.0	2.0	40	口～底部、回転糸切無調整
153	SD-066	A2層	かわらけ	ロクロ	8.2	8.8	4.9	65	口～底部、回転糸切無調整
154	SD-066	A2層	かわらけ	ロクロ	7.8	6.1	1.5	35	口～底部、回転糸切無調整
155	SD-066	A2層	かわらけ	ロクロ	8.0	5.0	1.6	40	口～底部、回転糸切無調整
156	SD-066	A2層	かわらけ	ロクロ	8.2	5.8	1.9	70	口～底部、回転糸切無調整
157	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	7.8	6.1	1.9	50	口～底部、回転糸切無調整
158	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	8.2	5.5	1.6	45	口～底部、回転糸切無調整
159	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.8	1.8	50	口～底部、回転糸切無調整
160	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	8.2	5.6	1.7	55	口～底部、回転糸切無調整
161	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	7.6	5.7	1.5	50	口～底部、回転糸切無調整
162	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	8.0	5.4	1.6	60	口～底部、回転糸切無調整
163	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	8.2	5.8	1.9	25	口～底部、回転糸切無調整
164	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	8.8	7.2	1.7	35	口～底部、回転糸切無調整
165	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	12.8	—	—	25	口～体部
166	SD-066	A1層	かわらけ	ロクロ	14.6	—	—	30	口～体部

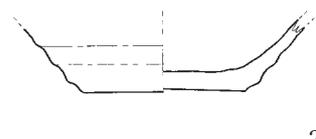
表 12 出土遺物一覧表④



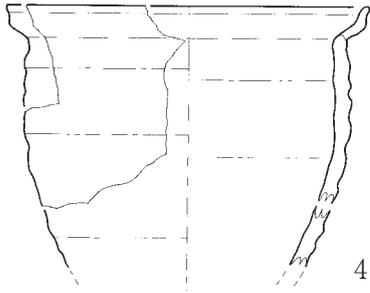
1



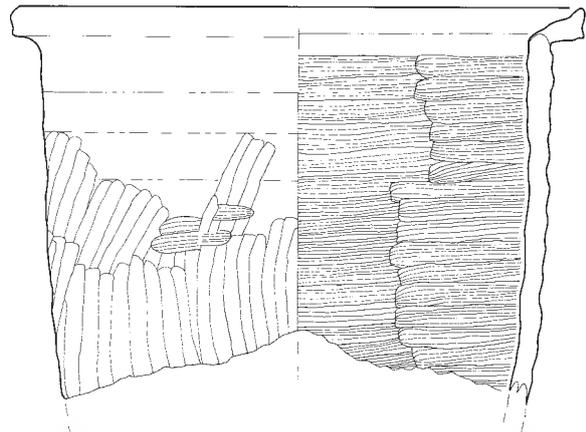
2



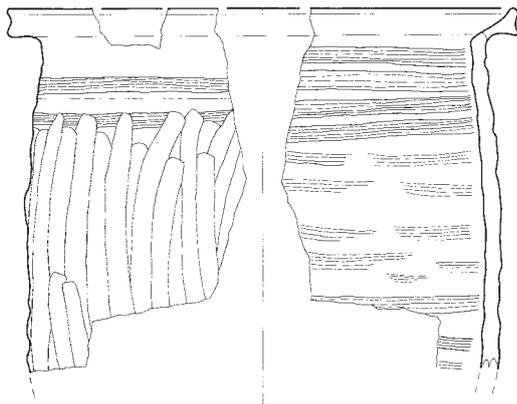
3



4



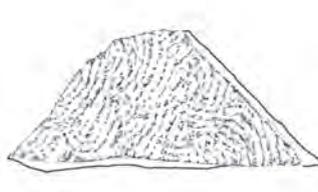
5



6



7



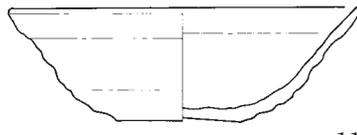
8



9



10



11

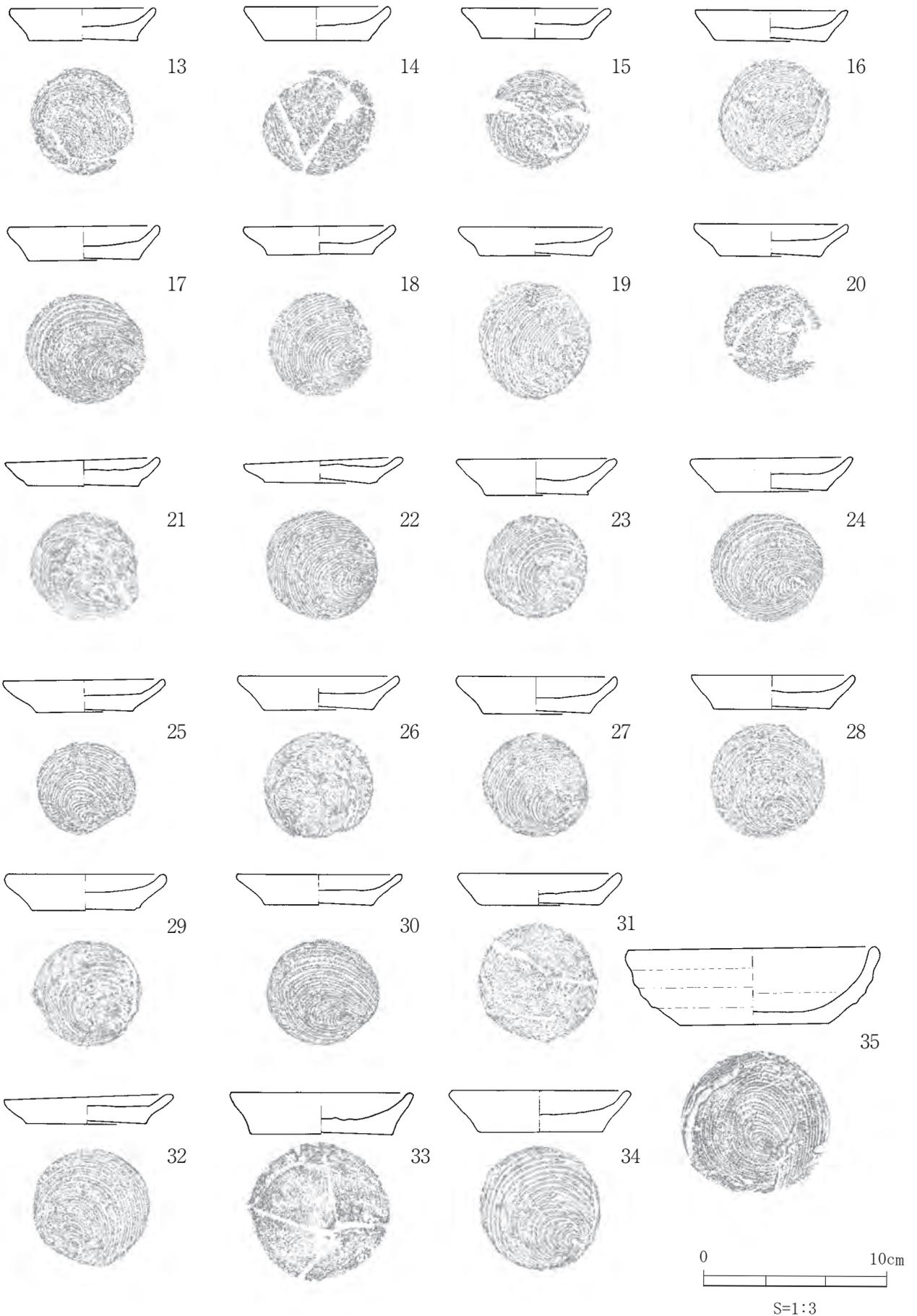


12

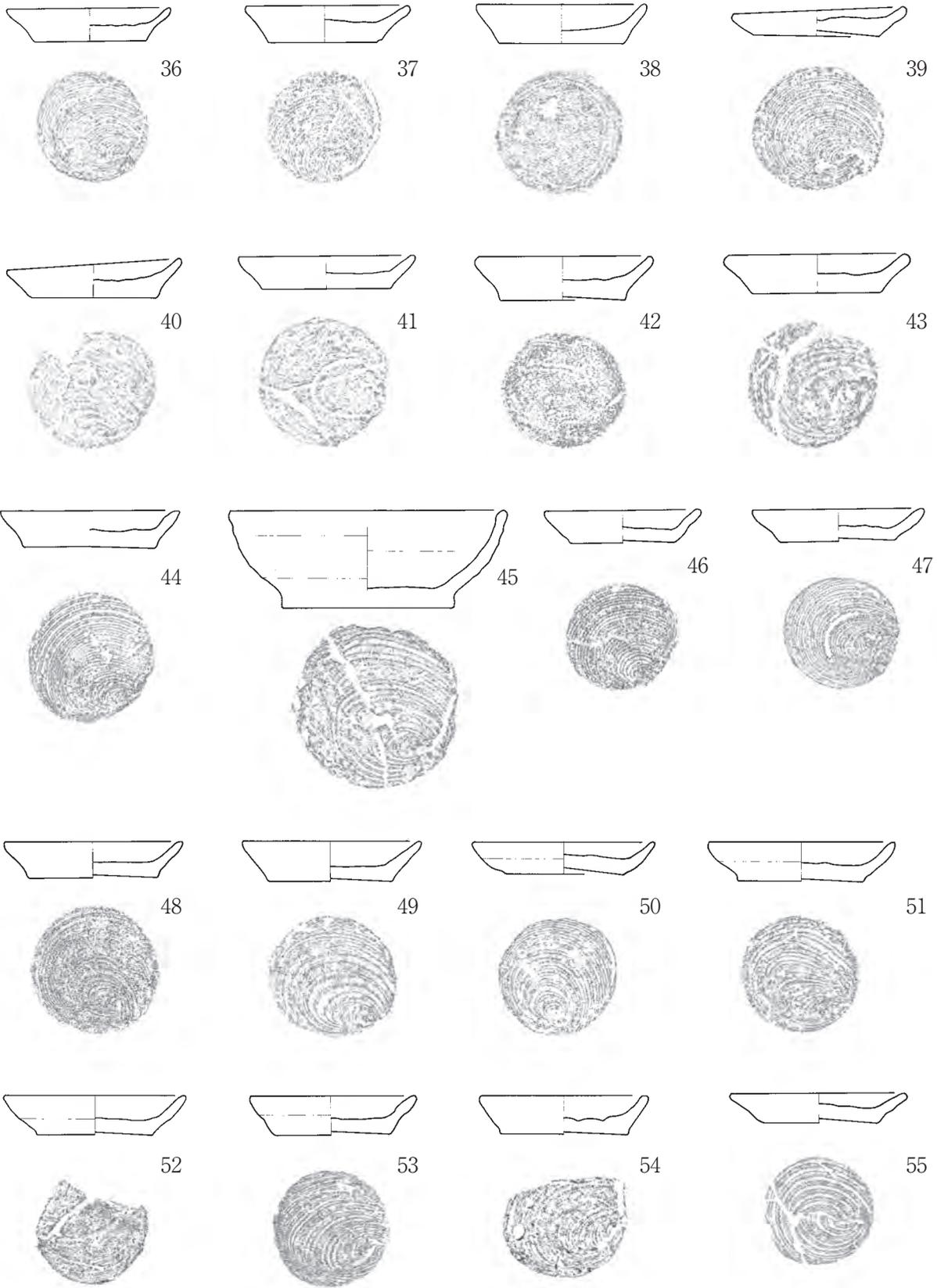


S=1:3

第 15 図 出土遺物① (1:3)

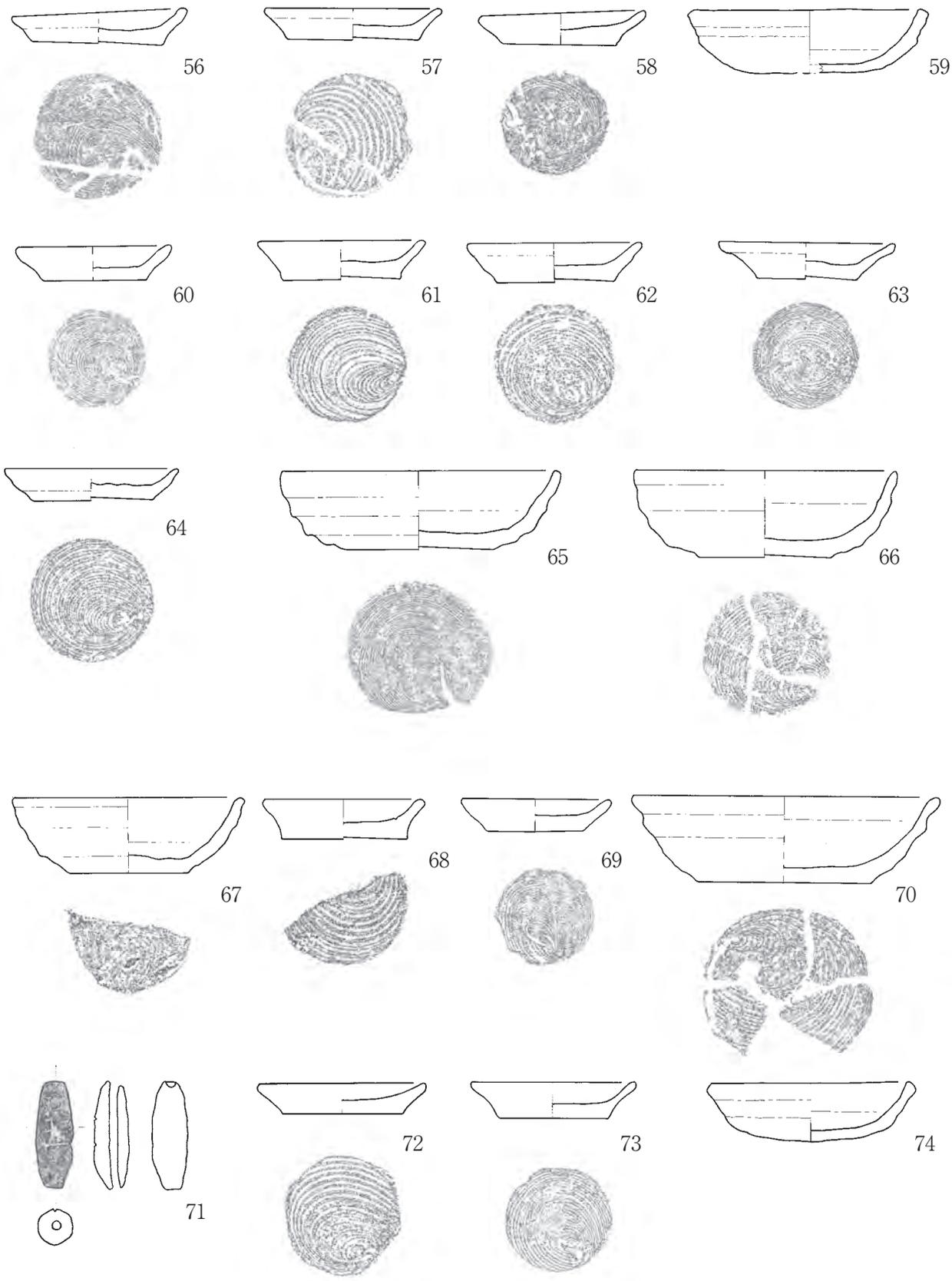


第 16 図 出土遺物② (1:3)



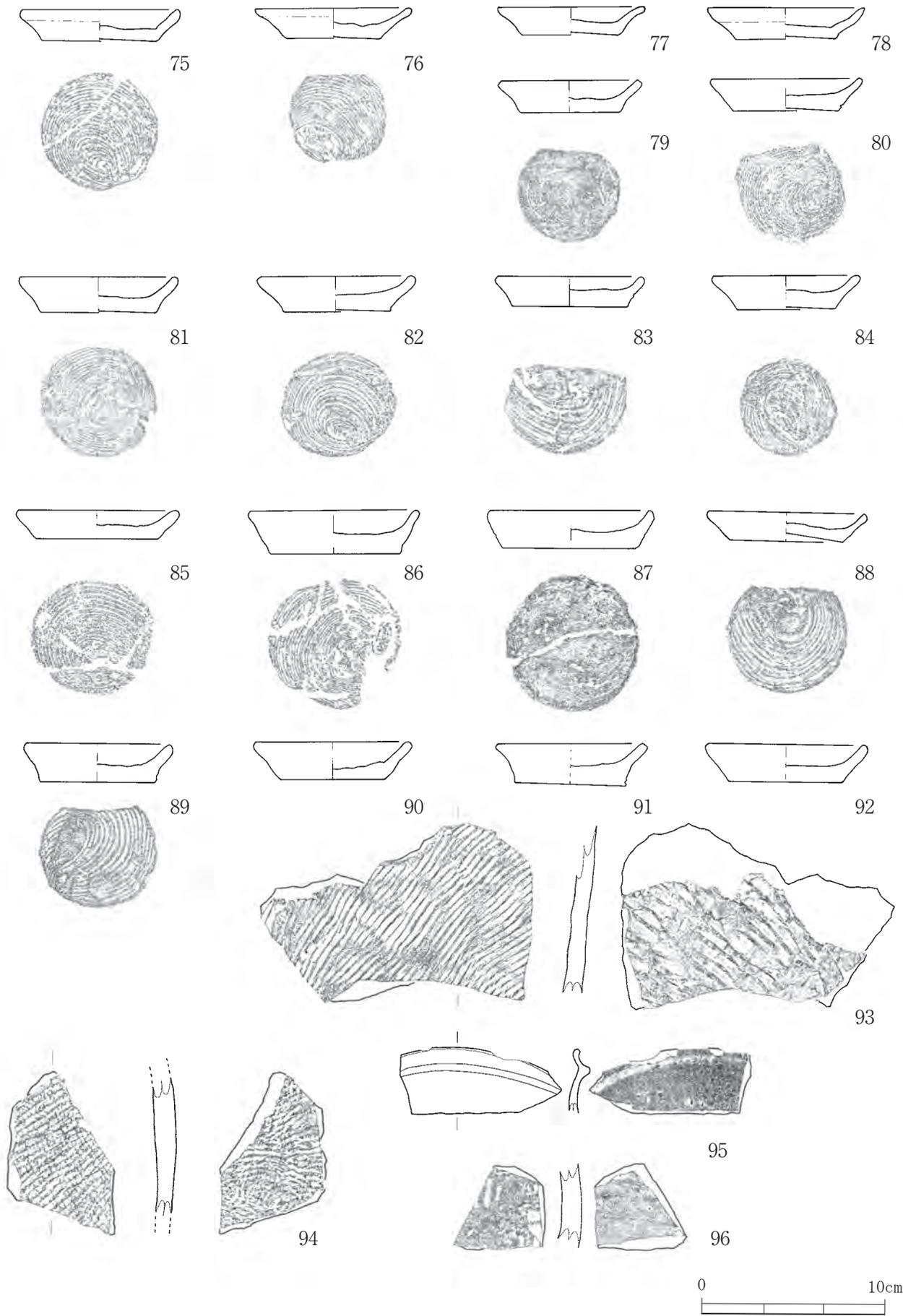
0 10cm
S=1:3

第 17 図 出土遺物③ (1:3)

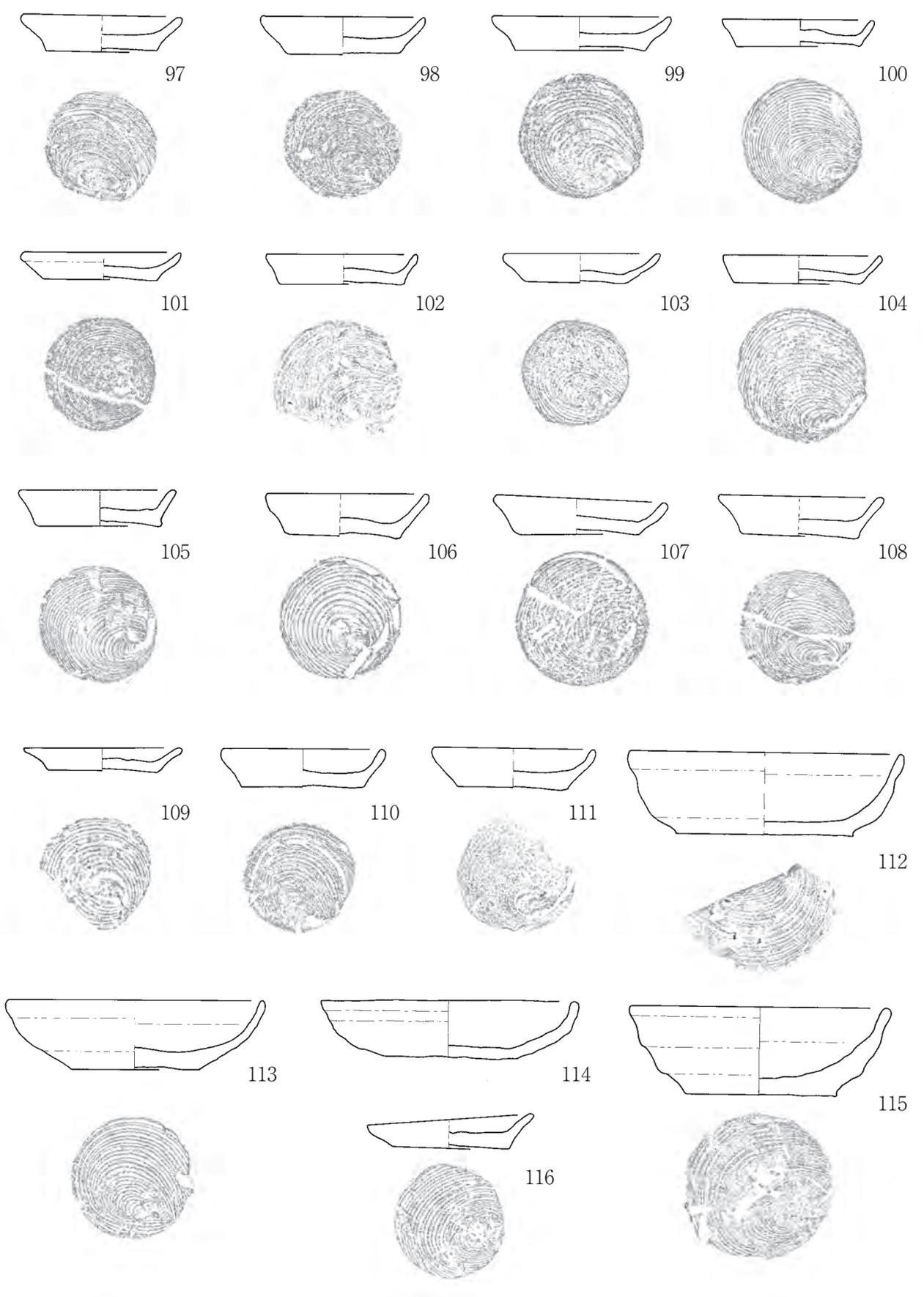


0 10cm
S=1:3

第 18 図 出土遺物④ (1:3)

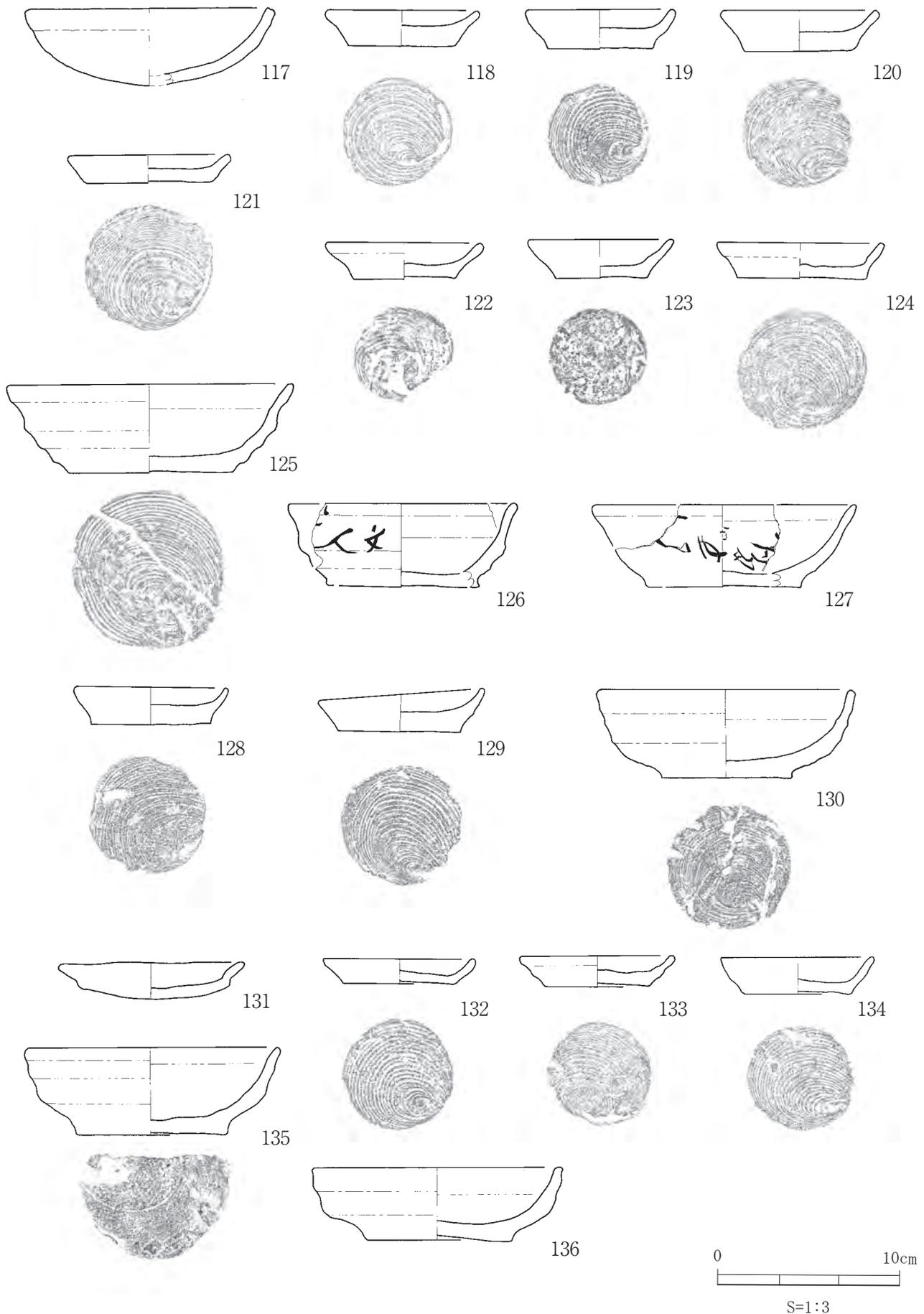


第 19 図 出土遺物⑤ (1:3)

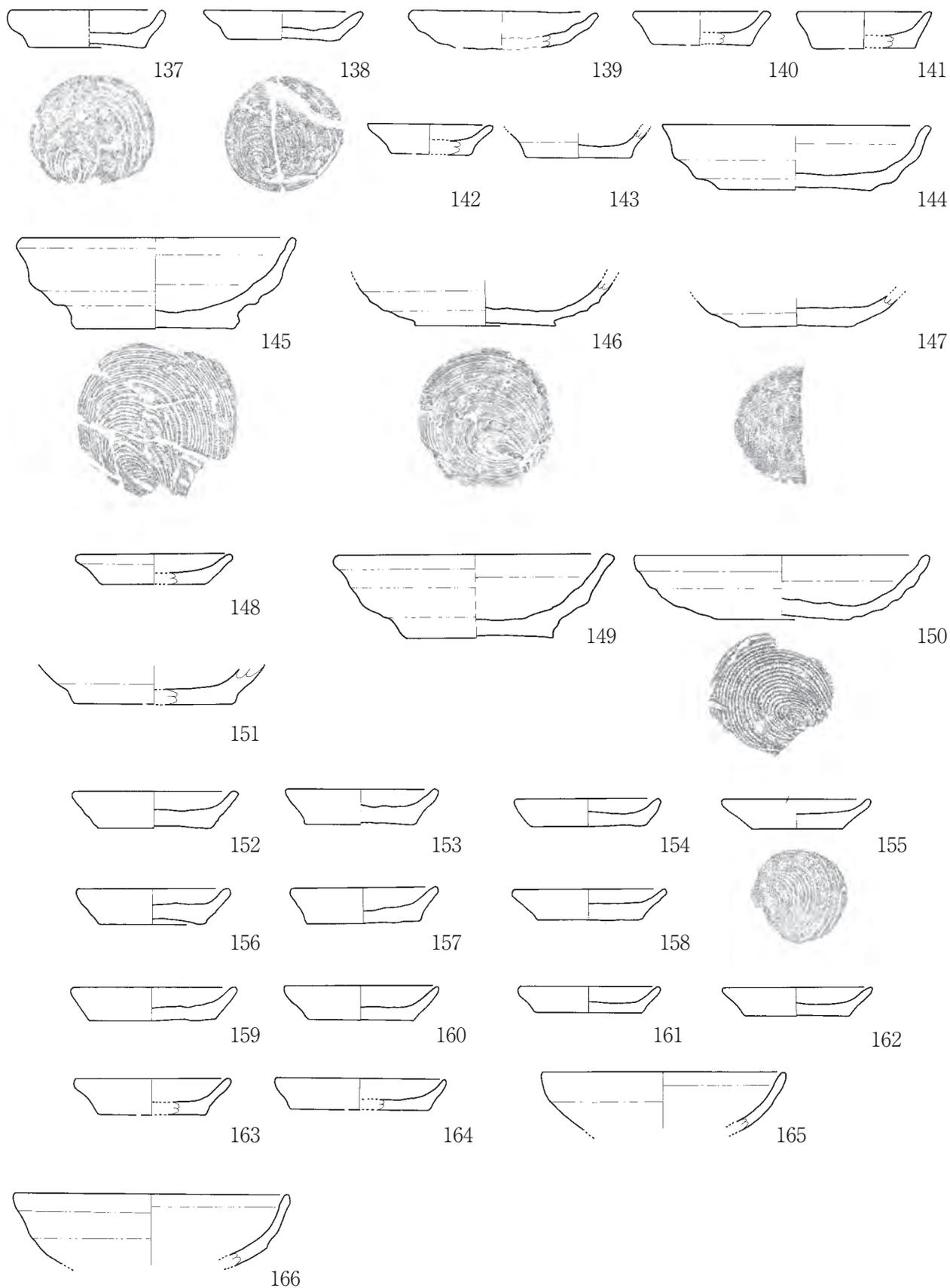


S=1:3

第 20 図 出土遺物⑥ (1:3)



第 21 図 出土遺物⑦ (1:3)



0 10cm
S=1:3

第 22 図 出土遺物⑧ (1:3)

まとめ

比爪館遺跡、これまで第32次調査（平成25年度）まで実施している。今回の第33次調査で検出された遺構は、SI-073 竪穴建物跡1棟、SB-024～SB-027 掘立柱建物跡4棟、SK-194～SK-204 土坑跡10基、SD-065・SD-066 堀跡2条、SD-067～SD-070 溝跡4条門跡1箇所、No-29 陥し穴状遺構1基、柱穴107口である。出土した遺物は、かわらけ、土師質土器、土師器坏・甕、あかやき土器坏・甕、国産陶器など中コンテナで18箱である。

竪穴建物跡

SI-073は隅丸方形の竪穴建物跡である。規模は、一辺約4.7mをはかり中型に分類されるが、後世の削平により著しく残りは良くない。カマド及び煙道は検出出来なかった。堀跡に切られている部分（北西）に構築されていた可能性も考えられるが、詳細は不明である。遺物は、土坑内・柱穴内・床面から須恵器・あかやき土器などが出土していることから、平安時代に属すると推測する。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡の軸方向で分類すると、SB-04・SB-026（N12°、SB-025・SB-027は（N4° E・N4° Eの傾きを持つ）の2期に分けられる。それぞれのSB柱穴埋土上層から、微細なかわらけが混入することから、流れ込みの可能性も考えられるが、中世（12世紀）の遺構と推測する。

土坑跡

平面形は、SK-194・SK-196・SK-200・SK-202・SK-204が不整円形、SK-195・SK-197・SK-198・SK-201・SK-203が不整楕円形、SK-199が不整長方形である。また、土器はSK-195からかわらけ、SK-196・SK-197から土師器・あかやき土器・須恵器が出土した。そのたの土坑跡から遺物は出土しなかった。以上のことから、時代は、SK-196・SK-197が平安時代、SK-195が中世（12世紀）、その他の土坑跡は不明である。

陥し穴状遺構

平面形は、不整楕長円形で長軸3.52m・短軸0.32mをはかる。埋土中から遺物が出土しないため詳細は不明だが、その形状から縄文時代のものと考えられる。

柵列跡

桁行4間、全長3m（10尺）をはかる。今回検出された門柱1・門柱2とほぼ平行に門の入り口が隠れるように構築されている。おそらく板塀で目隠した可能性が想定される。

溝跡

溝跡 4 条が調査区東から北西にほぼ並行にのびる。各溝の規模から SD-067 と SD-069、SD-068 と SD-70 が類似する。また、SD-069 底面から、非常に浅いが柱痕が列状に検出した。柵列及び堀の可能性が考えられる。以上の事から二条 1 セットとし、溝と溝の間が通路として使われていた可能性も窺える。2 組有ることは、建替えの可能性も考えられるが、今回の調査では性格・目的はわからなかった。

門柱 1・門柱 2

門柱 1・門柱 2 間の幅は 2.52m (8 尺 4 寸) をはかる。門柱 1 の石組の痕跡から、柱は直径 0.3m と推定する。また、南日詰大銀Ⅱ遺跡第 2 次調査 (紫波町教育委員会 2019) から検出された門の規模と形状が類似することから、棟門と考えられる。

堀跡

SD-065・SD-066 堀跡 2 条を検出した。規模は、SD-065 上端 2.28m ~ 2.45m・深さ 1.11m、SD-066 上端 1.98m ~ 2.27m・深さ 1.11m とほぼ同等で、同一のものと考えられる。SD-065 と SD-066 間 7.9m の空間地には土橋跡と推測する。以上の事から、今回検出された SD-065・SD-066 堀跡は、区画溝 (堀跡) と考えられる。

今回の調査で検出された SD-065・SD-066 堀跡間に土橋を確認している。また、この土橋に対応する道路状遺構の存在も考えなければならないが、検出に至らなかった。しかし、今回検出された SD-065・SD-066 堀跡と比爪館遺跡第 9 次・10 次調査で検出された堀跡 (RD-117) は、規模 (幅と深さ) と出土遺物 (かわらけ) 量が非常に類似している事から、堀跡は繋がっていた可能性が窺える。また県立博物館が比爪館遺跡内の微細地形測量 (県博 2016) を実施している。その結果、北西エリアに御所跡、北東エリアに政庁跡、南エリアに寺院跡に区分される複合施設であるのではないかという事が報告されている。以上のことから、堀跡と土橋跡と門跡がセットで発見された場所は政庁の入り口に位置するのではないかと推測される。

比爪館遺跡は今回で 34 次まで発掘調査が実施し研究されて来ているが、調査面積としては全体の約 1/10 程度である。まだまだ未確認のエリアが多いのが現状で、様相は判然としない。今後の開発行為に伴う発掘調査を注視し、さらなる知見を蓄積し、比爪館遺跡の全貌を明らかにする事が急がれる。

《引用・参考文献》

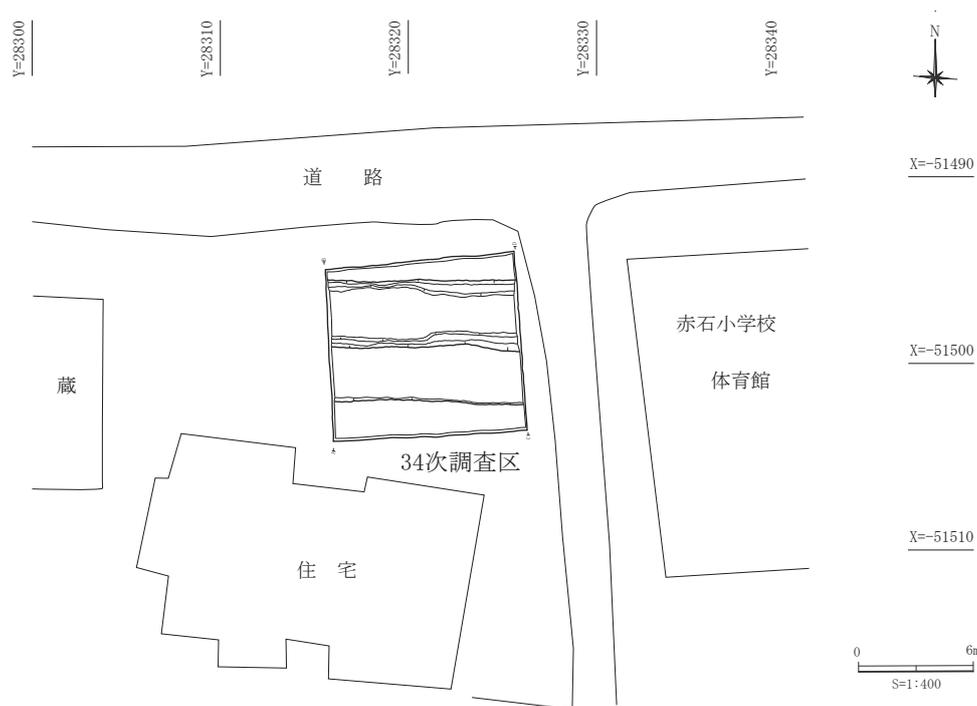
- 1972 紫波町 「紫波町史」第1巻
- 1983 紫波町教育委員会「比爪館遺跡 - 第6次発掘調査報告書 -」
- 1992 紫波町教育委員会「比爪館 - 第9・10次発掘調査報告書 -」
- 1993 紫波町教育委員会「紫波町の歴史 - 町内遺跡群細分布調査報告書Ⅱ -」
- 2002 紫波町教育委員会「比爪館 - 第11～18次発掘調査報告書 -」
- 2011 羽柴直人 「東日本初期武家政権の考古学的研究 平泉勢力圏の位置付けを中心に -」
- 2011 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 「南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
- 2011 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 「南日詰下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
- 2013 紫波町教育委員会「比爪館 - 第23・24次発掘調査報告書 -」
- 2015 岩手県教育委員会「柳之御所遺跡 - 第75次発掘調査概報 -」
- 2015 紫波町教育委員会「比爪館 - 第31・32次発掘調査報告書 -」
- 2016 岩手県教育委員会「平泉遺跡群発掘調査報告書 - 柳之御所遺跡 -」
- 2019 紫波町教育委員会「南日詰大銀Ⅱ遺跡 - 第1～3次発掘調査報告書 -」

5 第34次調査の概要

位置 国道4号から西に約320m、町立赤石小学体育館から西に約10mの地点で、範囲は南北8.7m、東西10.2mを調査した。

検出遺構 大溝跡

出土遺物 かわらけ、土師質土器、土師器、あかやき土器、須恵器、国産陶器、木製品、石器



第1図 第34次調査区 全体図 (1:400)

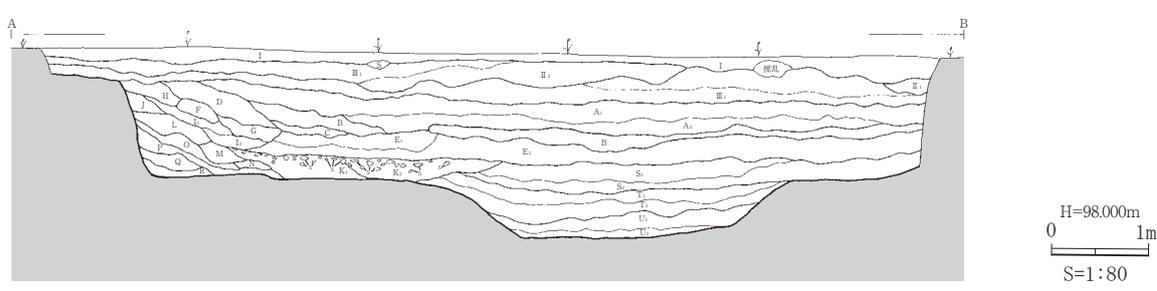
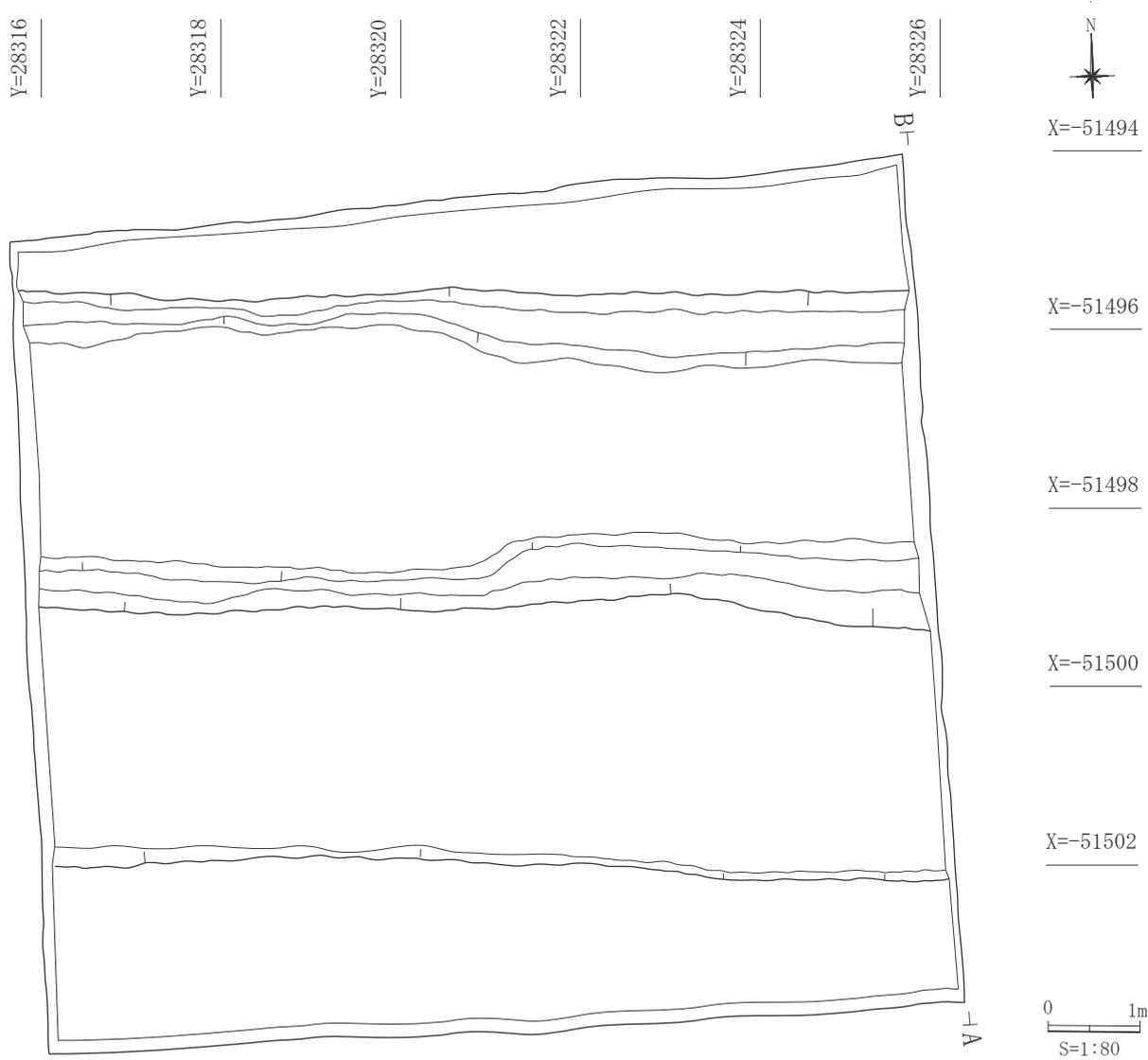
(1) 検出遺構

大溝跡 (第2図)

位置	調査区全面	断面形	逆台形	重複関係	なし
規模	上端南北8.7m以上、下端8.25mをはかる。				
埋土	自然堆積。A層～U層に大別し、A層・E層・I層・S層・T層・U層は2層に細分する。H層・M層は黒色土、A層・G層・L層・R層は黒褐色土、C層・I層・N層は暗褐色土、D層は褐色土、O層はにぶい黄褐色土、F層は黄褐色土、B層・J層・P層は明黄褐色土、K層・U層はオリーブ黒色土、Q層はオリーブ色土、T層は暗緑灰色色土、E層・S層は灰色土を主体とする。A層は土器・石器を含む。K層は土器を含む。S層は土器と小礫多く含む。P層・T層は土器と小礫少量含む。U層は土器と木材と小礫多く含む。				

底面の状況 平坦

出土遺物 かわらけ、土師質土器、土師器 坏・甕、須恵器 坏・甕、あかやき土器 坏・甕、石器、木製品



第 2 図 大溝跡 平面図・断面図 (1:100・1:80)

大溝跡

A1 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・石器を含む。
A2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
B 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D 層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E1 層	灰色土を主体に、にぶい黄色土を粉状～粒状に締まりは中。
E2 層	灰色土を主体に、灰黄色土を粒状～塊状に締まりは中。
F 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
G 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
H 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
I1 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I2 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
J 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～塊状に締まりは中。
K 層	オリーブ黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
L 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
M 層	黒色土を主体に、灰黄色土を粉状～粒状に締まりは中。
N 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
O 層	にぶい黄褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
P 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・小礫少量含む。
Q 層	オリーブ色土を主体に、灰白色土を粒状～塊状に締まりは中。
R 層	黒褐色土を主体に、黄色土を粒状～塊状に締まりは中。
S1 層	灰色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・小礫多く含む。
S2 層	灰色土を主体に、浅黄色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・小礫多く含む。
T1 層	暗緑灰色土を主体に、灰色土を粒状～塊状に締まりは中。小礫少量含む。
T2 層	暗緑灰色土を主体に、灰白色土を粒状～塊状に締まりは中。土器を含む。
U1 層	オリーブ黒色土を主体に、灰黄色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・小礫多く含む。
U2 層	オリーブ黒色土を主体に、暗灰黄色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・木材・小礫多く量含む。

表 1 大溝跡 埋土注記一覧表

2) 出土遺物（第 53 図～第 60 図）

今回の調査では、かわらけ、土師器、あかやき土器、須恵器、木製品、石器、ガラス瓶などコンテナで 6 箱出土した。その内、実測可能な出土遺物 64 点を図化し掲載した。

かわらけ

10 点。1～6 はロクロ成形である。3 は口径が 7.9cm をはかる。1・2・4～6 は口径が 8.4cm～8.9cm をはかる。いずれも回転糸切無調整である。4 にはスノコ痕を有する。8～10 は手づくね成形である。8 は口径が 8.6cm をはかる。9・10 は口径が 11.5cm～13.4cm をはかる。

土師器

3 点。11～13 は土師器 坏である。11 は口～底部で口径が 16.2cm をはかり、内外面に内黒処理と外面ヘラナデ調整、内面ヘラミガキ調整が施される。ロクロ成形で、回転糸切再調整である。12 は口～底部で口径が 19.2cm をはかり、外面ヘラナデ調整、内面に内黒処理とヘラナデ・ヘラミガキ調整が施される。ロクロ成形で、回転糸切再調整である。また、二次焼成を受ける。13 は体部～底部である。内外面ヘラナデ調整が施される。ロクロ成形で、回転糸切無調整である。

あかやき土器

8 点。14～18 はあかやき土器 坏である。14 は口～体部で口径が 11.4cm をはかる。16・17 は口～体部で口径が 12.4cm～12.9cm をはかる。15 は口～体部で口径が 13.5cm をはかる。18 は口～体部で口径が 14.2cm をはかる。19・21 はあかやき土器 甕、19 は口～体部で外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整が施される。21 は口～体部で内面ヘラナデ調整が施される。20 は把手と思われる。縦 2.8cm・横 7.3cm・厚さ 2.1cm をはかる。

須恵器

35 点。24 は壺の体部～底部である。厚さ 0.9cm をはかり、内外面ヘラナデ調整が施されている。22・41 は甕の口～頸部である。厚さ 0.5cm・0.7cm をはかり、内外面ヘラナデ調整が施されている。23 は甕の口～肩である。厚さ 0.9cm をはかり、外面タタキメ、内面ヘラナデ調整が施されている。25 は甕の口～体部である。厚さ 1.2cm をはかり、外面タタキメ、内面ヘラナデ調整が施されている。26～40・42～56 は甕の体部である。26～30・34～39・43・45～48・50・56 の厚さは 0.6cm～1.4cm をはかり、外面タタキメ調整が施されている。33・40・51・54 の厚さは 0.5cm～0.8cm をはかり、外面タタキメ、内面ヘラナデ調整が施されている。44・49・52・53・55 の厚さは 0.8cm～1.0cm をはかり、内外面タタキメ調整が施されている。

木製品・石器・ガラス製品

木製品は 5 点。すべて底面から出土し、形状は板状・棒状・杭状を有する。63 は礫器。底面から出土し、材質は粘板岩である。64 はガラス製品瓶。1931 年（昭和 6 年）に造られたロート滴下式両口式点眼瓶で群青色をしている。

かわらけ

番号	遺構	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
1	大溝跡	中段床直	かわらけ	ロクロ	8.9	4.8	2.9	40	回転糸切無調整
2	大溝跡	U2層	かわらけ	ロクロ	8.5	6.1	1.9	85	回転糸切無調整
3	大溝跡	U2層	かわらけ	ロクロ	7.9	5.8	1.8	95	回転糸切無調整
4	大溝跡	U1層	かわらけ	ロクロ	8.8	5.9	2.3	70	回転糸切無調整、スノコ痕
5	大溝跡	U1層	かわらけ	ロクロ	8.8	6.8	1.4	25	回転糸切無調整
6	大溝跡	U1層	かわらけ	ロクロ	8.4	6.6	1.9	25	回転糸切無調整
7	大溝跡	T1層	かわらけ	ロクロ	-	5.2	-	30	回転糸切無調整
8	大溝跡	U2層	かわらけ	手づくね	-	8.6	1.8	80	—
9	大溝跡	U2層	かわらけ	手づくね	-	11.5	3.1	30	—
10	大溝跡	U1層	かわらけ	手づくね	-	13.4	2.7	30	—

土師器 坏・あかやき土器 坏

番号	遺構	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
11	大溝跡	中段床直	土師器 坏	ロクロ	16.2	7.2	4.6	25	口～底部、回転糸切再調整、内外面黒色処理
12	大溝跡	中段床直	土師器 坏	ロクロ	19.2	7.1	6.5	40	口～底部、回転糸切再調整、内面黒色処理
13	大溝跡	K層	土師器 坏	ロクロ	-	-	-	15	口～底部、回転糸切無調整
14	大溝跡	中段床直	あかやき 坏	ロクロ	11.4	5.6	2.6	75	口～底部、回転糸切再調整
15	大溝跡	中段床直	あかやき 坏	ロクロ	13.5	5.2	4.1	90	口～底部、回転糸切無調整
16	大溝跡	中段床直	あかやき 坏	ロクロ	12.4	5.8	5.3	25	口～底部、回転糸切無調整
17	大溝跡	中段床直	あかやき 坏	ロクロ	12.9	5.9	4.3	90	口～底部、回転糸切無調整
18	大溝跡	中段床直	あかやき 坏	ロクロ	14.2	6.8	5.3	25	口～底部、回転糸切無調整

あかやき土器 甕・須恵器 甕

番号	遺構	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
19	大溝跡	中段床直	あかやき 甕	ロクロ	4.9	7.5	0.6	破片	口～体部、内外面ヨコナデ
20	大溝跡	中段床直	あかやき 甕	ロクロ	-	-	-	破片	把手？
21	大溝跡	中段床直	あかやき 甕	ロクロ	5.8	8.7	8.7	破片	口～体部、内外面ヘラナデ
22	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	4.5	5.2	0.7	破片	口～頸部、内外面ヘラナデ
23	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	7.5	8.7	1.1	破片	口～肩、外面タタキメ、内面ヘラナデ
24	大溝跡	中段床直	須恵器 壺	ロクロ	10.9	5.1	0.9	破片	体部～底部、内外面ヘラナデ
25	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	9.3	8.6	1.3	破片	口～体部、外面タタキメ、内面ヘラナデ
26	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	5.6	3.5	0.8	破片	体部、外面タタキメ
27	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	5.5	4.6	1.2	破片	体部、外面タタキメ
28	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	5.6	4.3	0.8	破片	体部、外面タタキメ
29	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	5.7	5.8	1.3	破片	体部、外面タタキメ
30	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	6.2	5.1	0.5	破片	体部、外面タタキメ
31	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	4.9	5.2	0.8	破片	体部、外面タタキメ、内面当て具
32	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	7.2	4.1	0.9	破片	体部、外面タタキメ、内面当て具

表2 出土遺物一覧表①

番号	遺構	出土位置	器種名	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
33	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	7.3	4.7	0.7	破片	体部、外面タタキメ、内面ヘラナデ
34	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	6.7	4.1	0.6	破片	体部、外面タタキメ、内面当て具
35	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	8.6	7.5	0.4	破片	体部、外面タタキメ
36	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	9.7	9.2	0.8	破片	体部、外面タタキメ
37	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	8.5	8.1	1.3	破片	体部、外面タタキメ、内面当て具
38	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	7.9	10.1	0.9	破片	体部、外面タタキメ
39	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	12.7	6.2	0.6	破片	体部、外面タタキメ
40	大溝跡	中段床直	須恵器 甕	ロクロ	12.3	9.8	0.6	破片	体部、外面タタキメ、内面ヘラナデ
41	大溝跡	U1層	須恵器 甕	ロクロ	3.8	6.8	0.6	破片	口～頸部、内外面ヘラナデ
42	大溝跡	U1層	須恵器 甕	ロクロ	6.8	9.3	1.3	破片	体部、外面タタキメ、内面ヘラナデ
43	大溝跡	T2層	須恵器 甕	ロクロ	5.4	5.8	1.3	破片	体部、外面タタキメ
44	大溝跡	T2層	須恵器 甕	ロクロ	5.6	4.8	1.7	破片	体部、内外面タタキメ
45	大溝跡	T2層	須恵器 甕	ロクロ	5.2	7.6	0.8	破片	体部、外面タタキメ
46	大溝跡	T2層	須恵器 甕	ロクロ	6.8	6.7	0.9	破片	体部、外面タタキメ
47	大溝跡	T2層	須恵器 甕	ロクロ	3.9	4.1	0.7	破片	体部、外面タタキメ
48	大溝跡	T1層	須恵器 甕	ロクロ	5.4	6.8	0.8	破片	体部、外面タタキメ
49	大溝跡	S1層	須恵器 甕	ロクロ	9.2	8.1	0.8	破片	体部、内外面ヘラナデ
50	大溝跡	K層	須恵器 甕	ロクロ	5.8	2.8	0.7	破片	体部、外面タタキメ
51	大溝跡	K層	須恵器 甕	ロクロ	6.1	4.4	0.6	破片	体部、外面タタキメ、内面ヘラナデ
52	大溝跡	K層	須恵器 甕	ロクロ	4.3	5.1	0.9	破片	体部、内外面タタキメ
53	大溝跡	A2層	須恵器 甕	ロクロ	4.4	2.7	0.8	破片	体部、内外面タタキメ
54	大溝跡	A2層	須恵器 甕	ロクロ	13.4	7.8	0.7	破片	体部、外面タタキメ、内面ヘラナデ
55	大溝跡	A1層	須恵器 甕	ロクロ	4.7	2.9	0.8	破片	体部、内外面ヘラナデ
56	大溝跡	A1層	須恵器 甕	ロクロ	5.1	7.7	1.1	破片	体部、外面タタキメ

木製品

番号	遺構	出土位置	器種名	部材名	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
57	大溝跡	底直	木製品	板状	5.8	2.5	0.3	-	—
58	大溝跡	底直	木製品	板状	13.4	4.3	1.1	-	—
59	大溝跡	底直	木製品	棒状	21.8	3.3	3.3	-	—
60	大溝跡	底直	木製品	棒状	18.1	6.4	4.4	-	斜めに切られている部分が焦げている
61	大溝跡	底直	木製品	杭状	25.3	4.8	3.6	-	ノミ痕有り
62	大溝跡	底直	木製品	櫛	3.3 以上	3.2 以上	0.6 以上	-	—

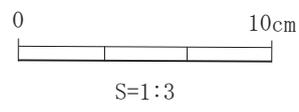
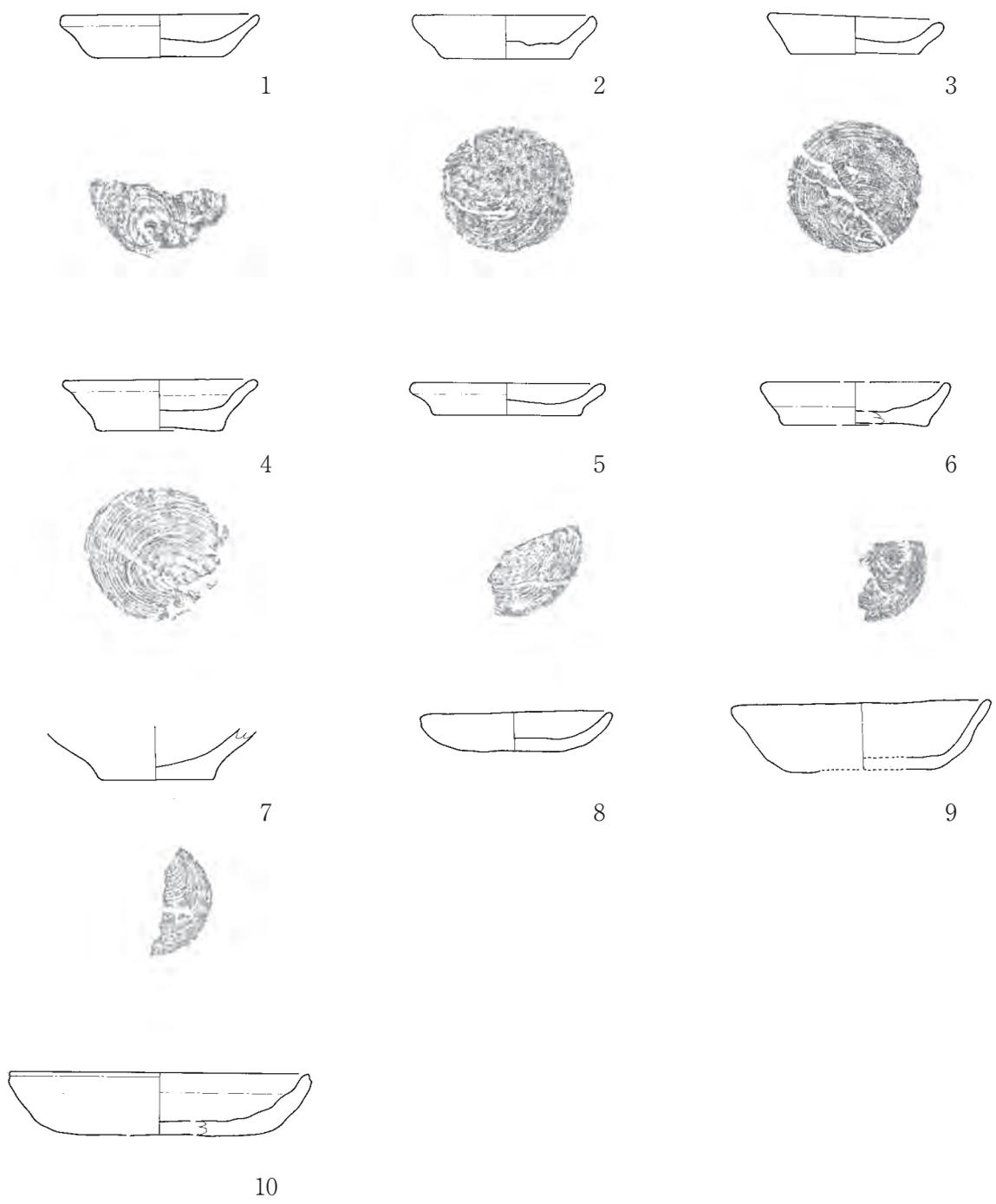
石器

番号	遺構	出土位置	器種名	材質	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
63	大溝跡	底直	礫器	粘板岩	16.3	15.2	3.4	-	—

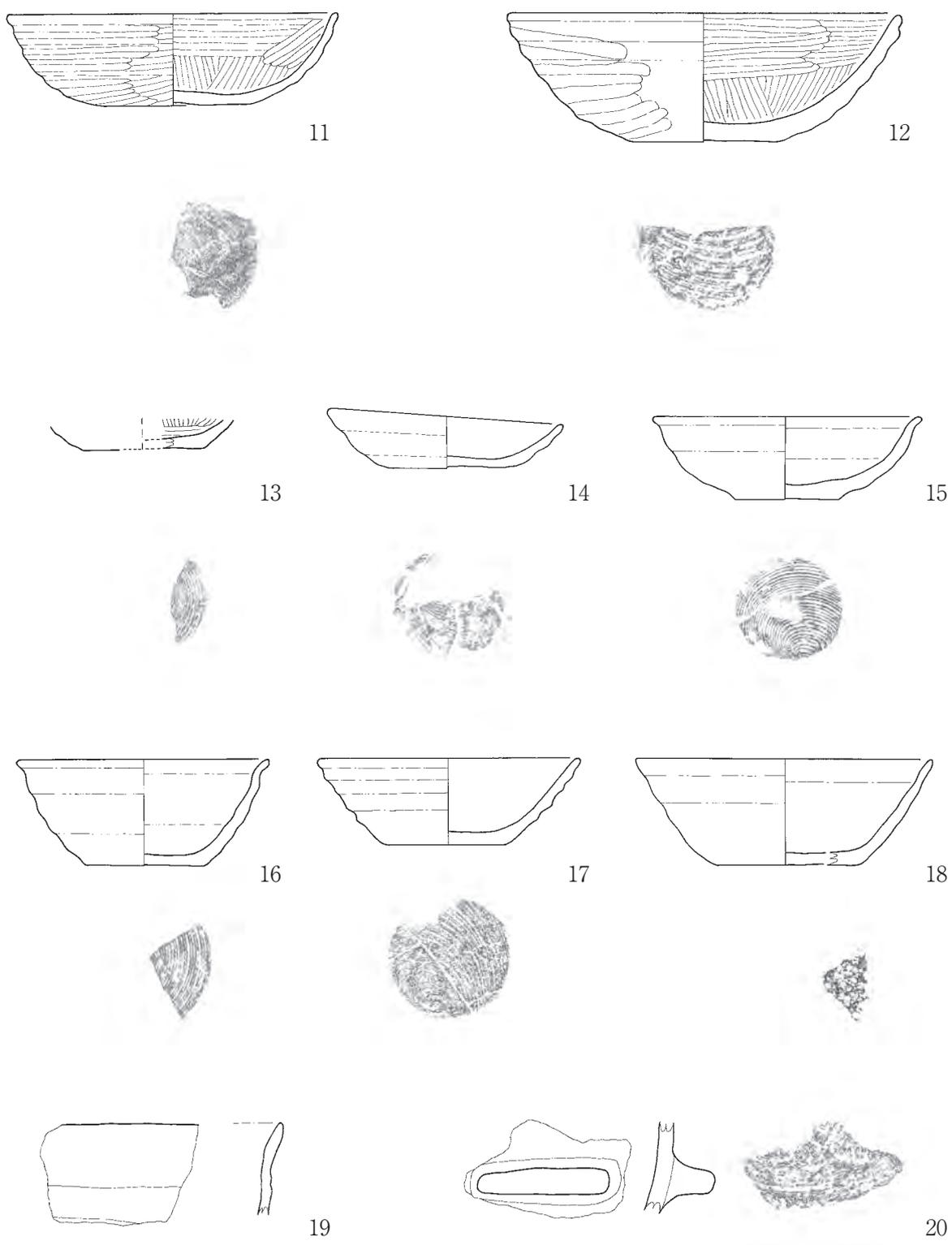
ガラス瓶

番号	遺構	出土位置	器種名	材質	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率 (%)	備 考
64	大溝跡	A1層	目薬	ガラス	8.4	2.3	1.8	95	ロートの滴下式両口式点眼瓶 1931(昭和6年)

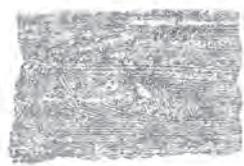
表3 出土遺物一覧表②



第3図 出土遺物① (1:3)



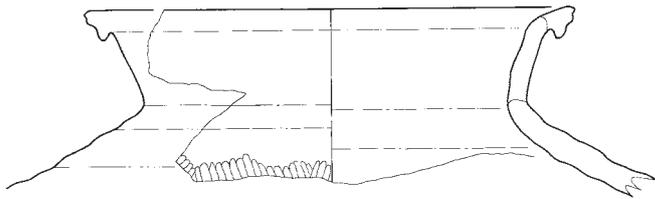
第4図 出土遺物② (1:3)



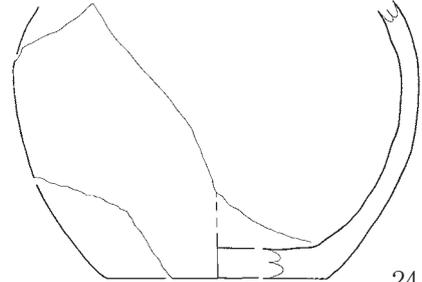
21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



S=1:3

第5図 出土遺物③ (1:3)



31



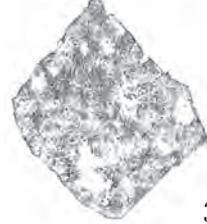
32



33



34



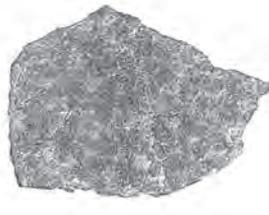
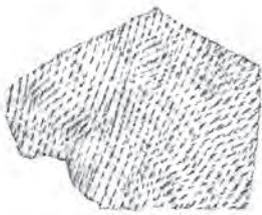
35



36



37



38

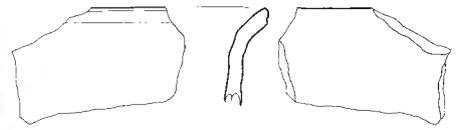
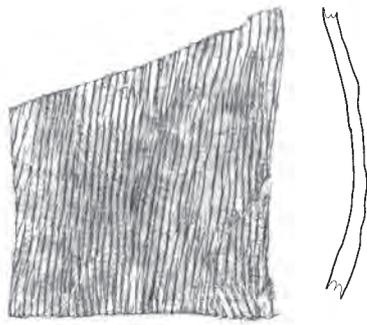


39



S=1:3

第6図 出土遺物④ (1:3)



41

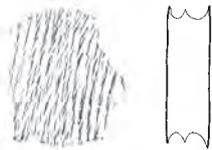
40



42



43



44



45



46

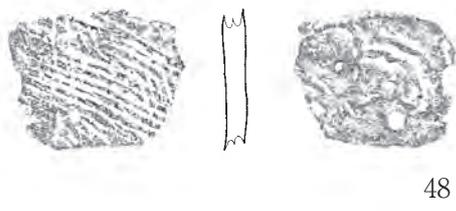


47

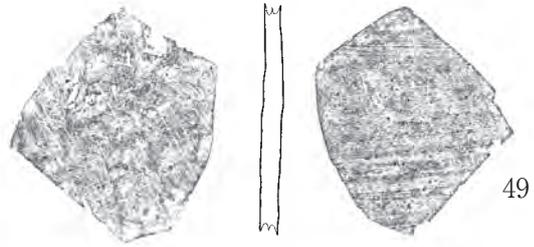


S=1:3

第7図 出土遺物⑤ (1:3)



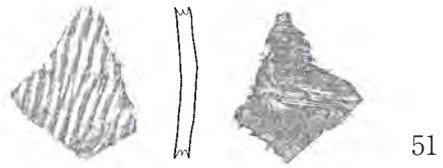
48



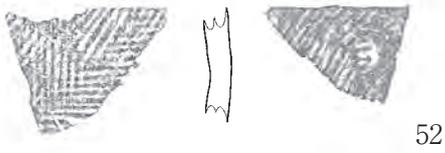
49



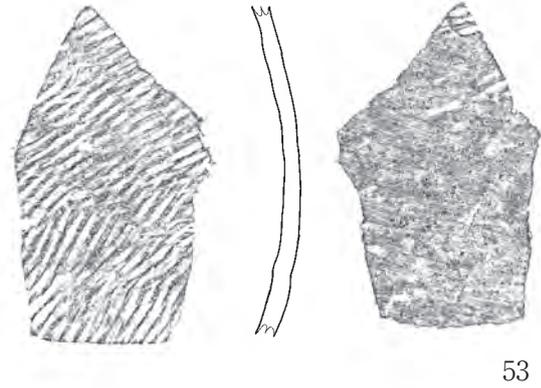
50



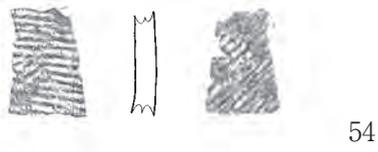
51



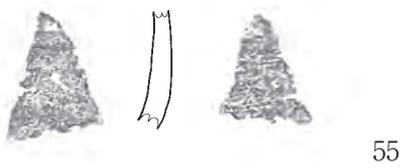
52



53



54



55

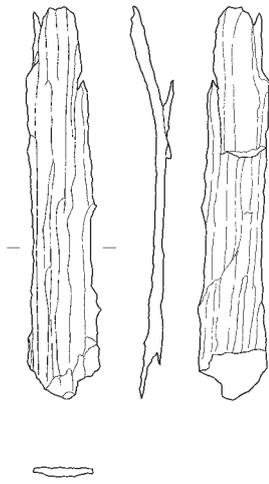


56

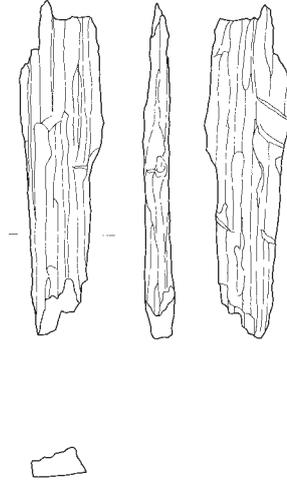


S=1:3

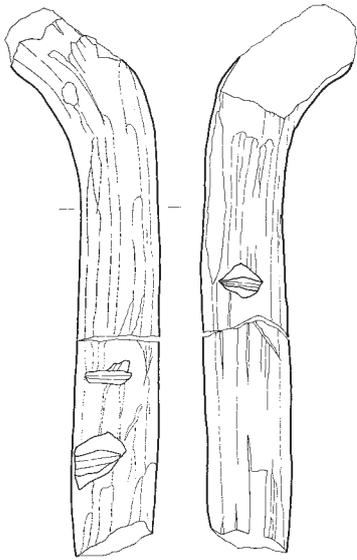
第8図 出土遺物⑥ (1:3)



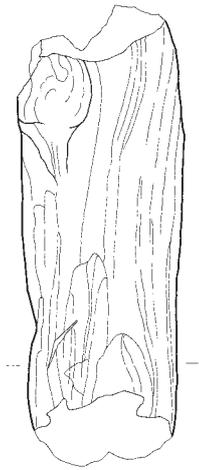
57



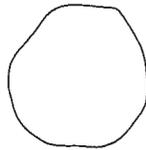
58



59

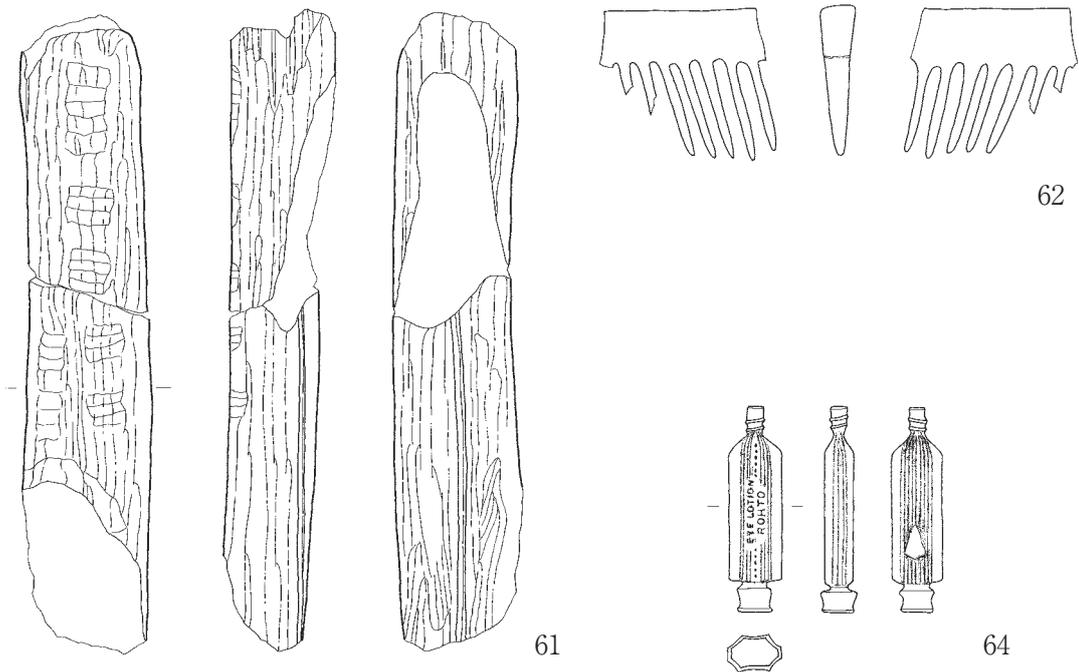


60



S=1:3

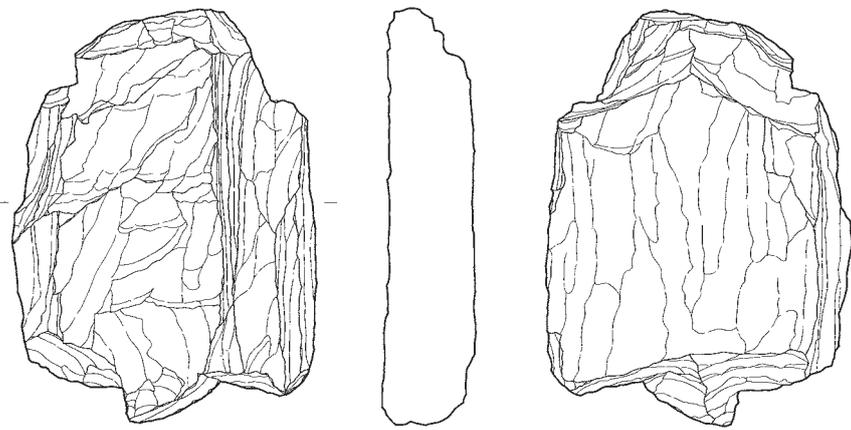
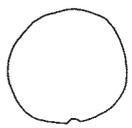
第9図 出土遺物⑦ (1:3)



61

62

64



63



S=1:3

第10図 出土遺物⑧ (1:3)

6 まとめ

比爪館遺跡第34次調査では、大溝跡1条を検出した。遺物は、かわらけ、土師器、あかやき土器、須恵器、木製品、石器、ガラス瓶などコンテナで6箱出土した。

・大溝跡

大溝跡の形状は東西に直進的に伸び西方向に2度振れる。また、断面系は逆凸形を有し、両側に段を有する。南側一段目の規模は、幅南北1.2m～1.8m、深さ1.35m、南側二段目の規模は、幅南北2.7m～2.8m、深さ1.38m、三段目（最下層面）の規模は、幅南北3.5m～3.6m、深さ1.92mをはかる。第9・第10次・第12次調査で検出された大溝の規模とほぼ一致する。

今回の調査では、残念ながらこれまで検出された大溝跡の北側掘込面を確認することは出来なかった。しかし、大溝跡の一段目南端から三段目（最下層面）の中心の幅をはかると6m前後になり、単純に2倍すると、幅約12m前後の規模になるものと推測する。今後はまだ、発見されていない大溝跡の西側・南側・東側の三辺の位置及び四隅（コーナー部分）の位置が分かれば、より詳細な規模等が明確になって来るであろう。今後の調査に期待したい。

《引用・参考文献》

- 1972 紫波町 「紫波町史」第1巻
- 1992 紫波町教育委員会「比爪館 - 第9・10次発掘調査報告書 -」
- 2002 紫波町教育委員会「比爪館 - 第11～18次発掘調査報告書 -」
- 2003 岩手県教育委員会「柳之御所遺跡 - 第56次発掘調査概報 -」
- 2011 羽柴直人 「東日本初期武家政権の考古学的研究 平泉勢力圏の位置付けを中心に -」
- 2015 岩手県教育委員会「柳之御所遺跡 - 第75次発掘調査概報 -」
- 2015 紫波町教育委員会「比爪館 - 第31・32次発掘調査報告書 -」
- 2019 紫波町教育委員会「南日詰大銀Ⅱ遺跡 - 第1～3次発掘調査報告書 -」

写 真 图 版



第1図版 比爪館遺跡第33次調査区全景（空撮）



SI-073 竪穴建物跡 完掘 (西から)



SI-073 竪穴建物跡 断面 (東から)



SI-073 竪穴建物跡 出土遺物①



SI-073 竪穴建物跡 出土遺物②



SK-196・SK-197 完掘 (西から)



SK-197 出土遺物



N0.29 陥し穴状土坑跡 完掘 (南から)



SA-02 柵列跡 完掘 (西側)



SD-067 ~ SD-70 溝跡 完掘 (東から)



SD-067 溝跡 断面 (西から)



SD-068 溝跡 断面 (東から)



SD-069 溝跡 柱列検出状況



門柱1・門柱2 SA-03 柵列跡



門柱1 完掘 (南から)



門柱2 完掘 (南から)



SD-065 堀跡 完掘 (空撮)



SD-066 堀跡 完掘 (空撮)



SD-065 堀跡 出土遺物① 断面 (東から)



SD-065 堀跡 出土遺物② (西から)



SD-066 堀跡 出土遺物 断面 (西から)



出土遺物状況①



出土遺物状況②



出土遺物状況③



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



72



71



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



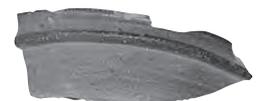
90



91



92



95



93



94



96



97



98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



第 12 図版 比爪館遺跡第 34 次調査区全景 (空撮)



大溝跡 完掘（東側）



大溝跡 断面（東側）



大溝跡 完掘（西側）



大溝跡 断面（西側）



出土遺物状況①



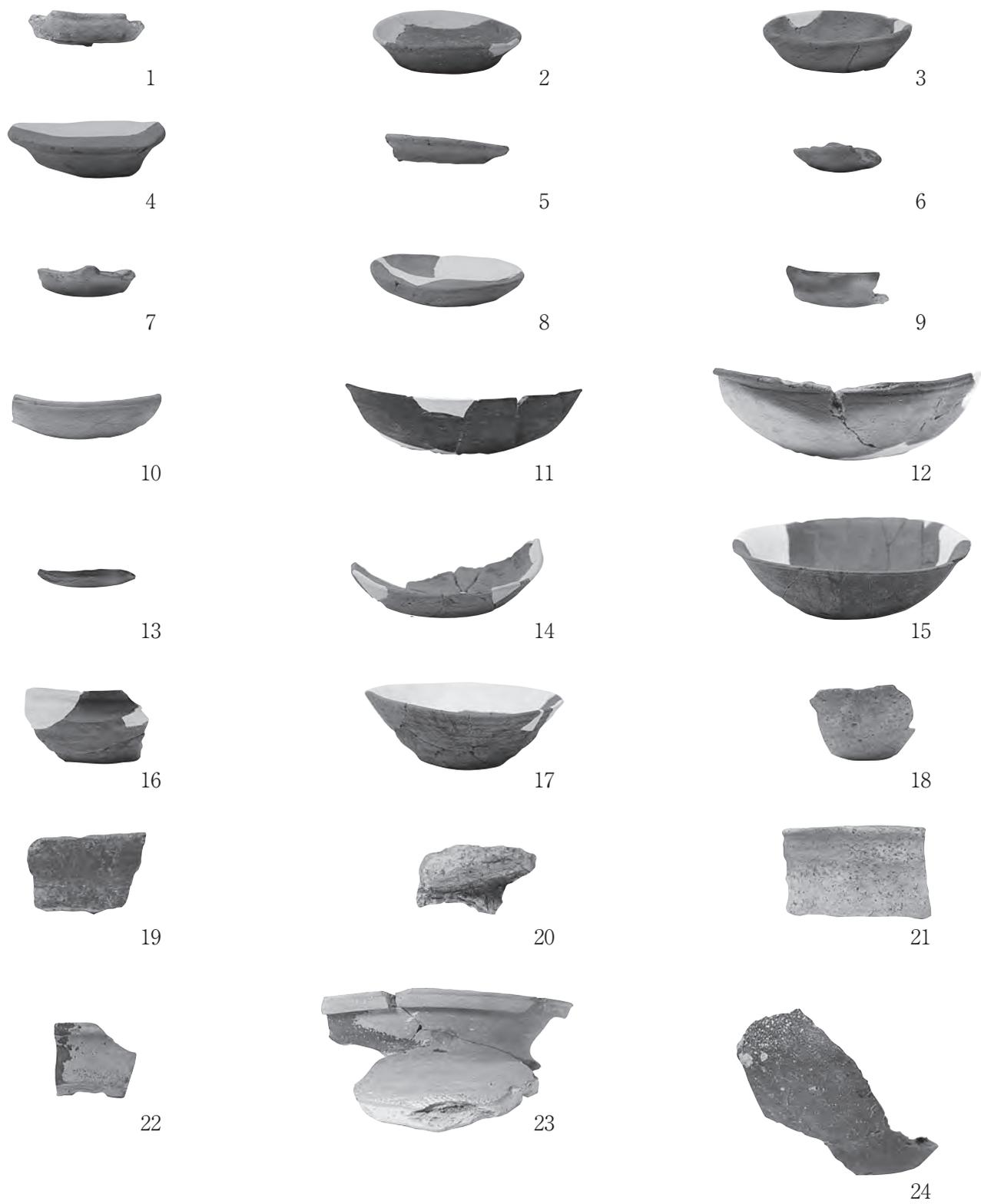
出土遺物状況②



検出面



作業風景



第 14 图 出土遺物①



25



26



27



28



29



30



31



32



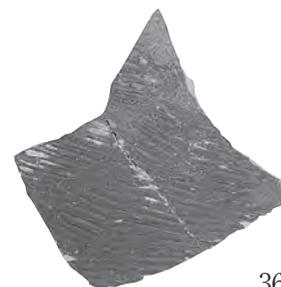
33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



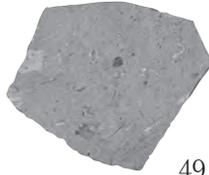
46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59

第 16 图 出土遺物③



60



61



62



63



64

抄 録

ふりがな	ひづめだて だいさんじゅうさんじ・さんじゅうよじはくつちょうさほうこくしょ							
書名	比爪館 —第33次・34次発掘調査報告書—							
副書名								
巻次								
シリーズ名	紫波町埋蔵文化財調査報告書 2021							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木 賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1							
発刊年月日	令和4年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひづめだてあと 比爪館跡 だいさんじゅうさ 第33次調査	いわてけんしわぐん 岩手県紫波郡 しわちゅうのみひづめ 紫波町南日詰 あざはこしみずちない 字箱清水地内		LE67-2089	39° 53′ 52″	141° 16′ 43″	令和1.6.10 ～7.31	223.1㎡	赤石第一・第二・ 第三放課後児童ク ラブ整備事業に伴 う緊急発掘調査
だいさんじゅうさ 第34次調査				39° 53′ 56″	141° 16′ 28″	令和3.4.1 ～4.28	95.8㎡	個人住宅倉庫建設 事業に伴う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ひづめだてあと 比爪館跡 だいさんじゅうさ 第33次調査	しゅうらくあと 集落跡	へいあんじだい 平安時代	たてあなたてものもと 竪穴建物跡 ほつたてはしらたてものもと 掘立柱建物跡 へいあと 塀跡 ほりあと 堀跡 もんあと 門跡	はじきつきかめ 土師器 坏・甕 すえきかめ 須恵器 甕 かわらけ		あづまかがけいさい ・吾妻鏡掲載 おうしゅうふじわらしかんれんいせき ・奥州藤原氏関連遺跡		
ひづめだてあと 比爪館跡 だいさんじゅうさ 第34次調査	じょうかんあと 城館跡	ちゅうせい 中世 (12世紀)	おおみぞあと 大溝跡	はじきつきかめ 土師器 坏・甕 はじきつきかめ 土師器 坏・甕 かわらけ もくざいせつき 木材・石器				

比 爪 館 一第 33 次・第 34 次発掘調査調査報告書一

令和 4 年 3 月

編集・発行 紫波町教育委員会
〒 028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目 3 番地 1
TEL 019-672-2111(代) FAX 019-672-1553

印刷 川口印刷工業株式会社
〒 020-0841 盛岡市羽場 10-1-2
TEL 019-632-2211 FAX 019-632-2217
